

頰部腺癌病変

その病態、前癌病変と初期癌

内胚葉に由来する 臓器・組織

内胚葉

卵黄囊

原始腸管

前腸

中腸

後腸

尿膜管

原始性殖細胞(胚細胞)

原始咽頭

pharyngeal pouches

総排泄口

泌尿性殖洞

卵母細胞

卵細胞

精母細胞

精子

上皮

上皮

上皮

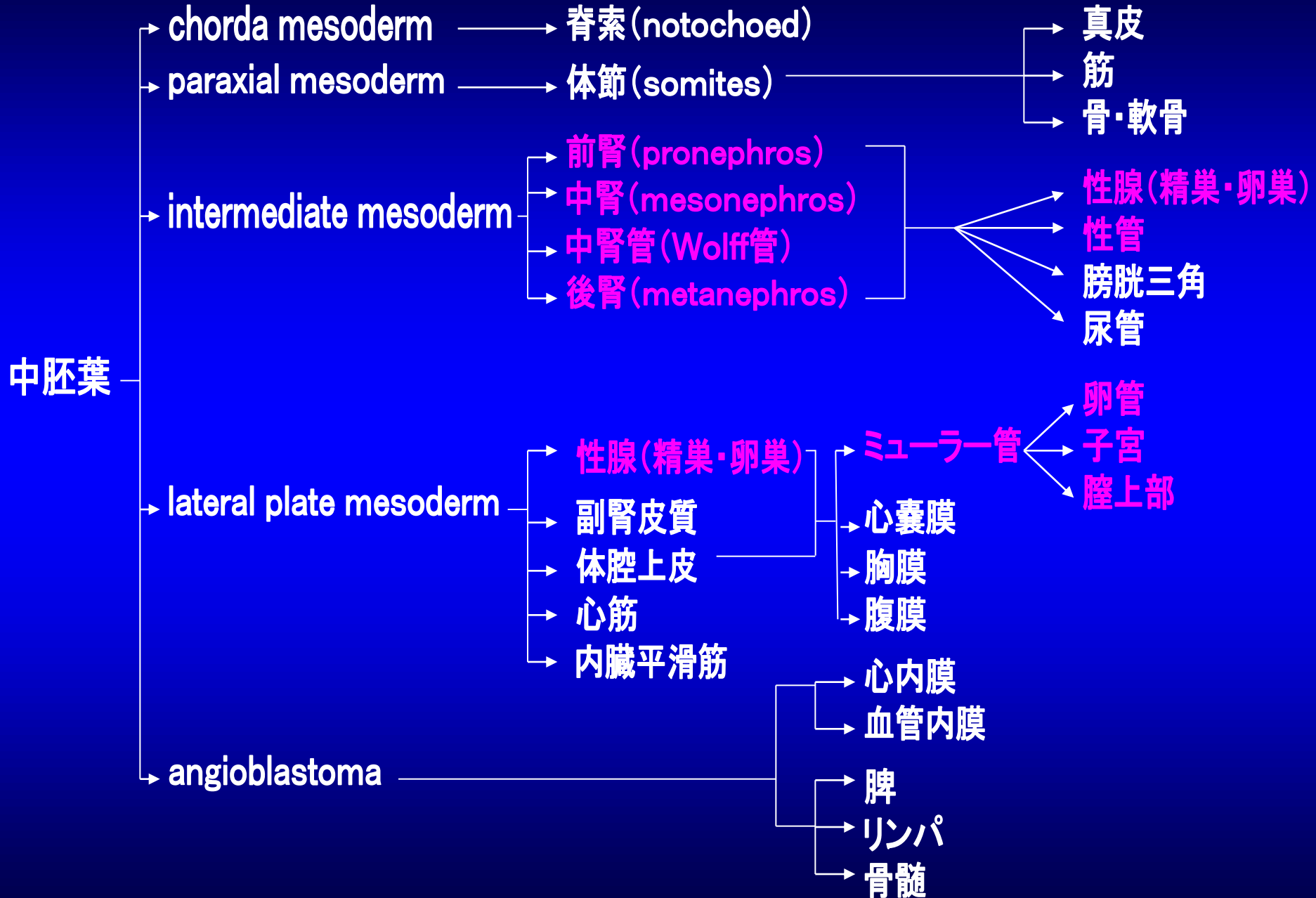
上皮

上皮

上皮

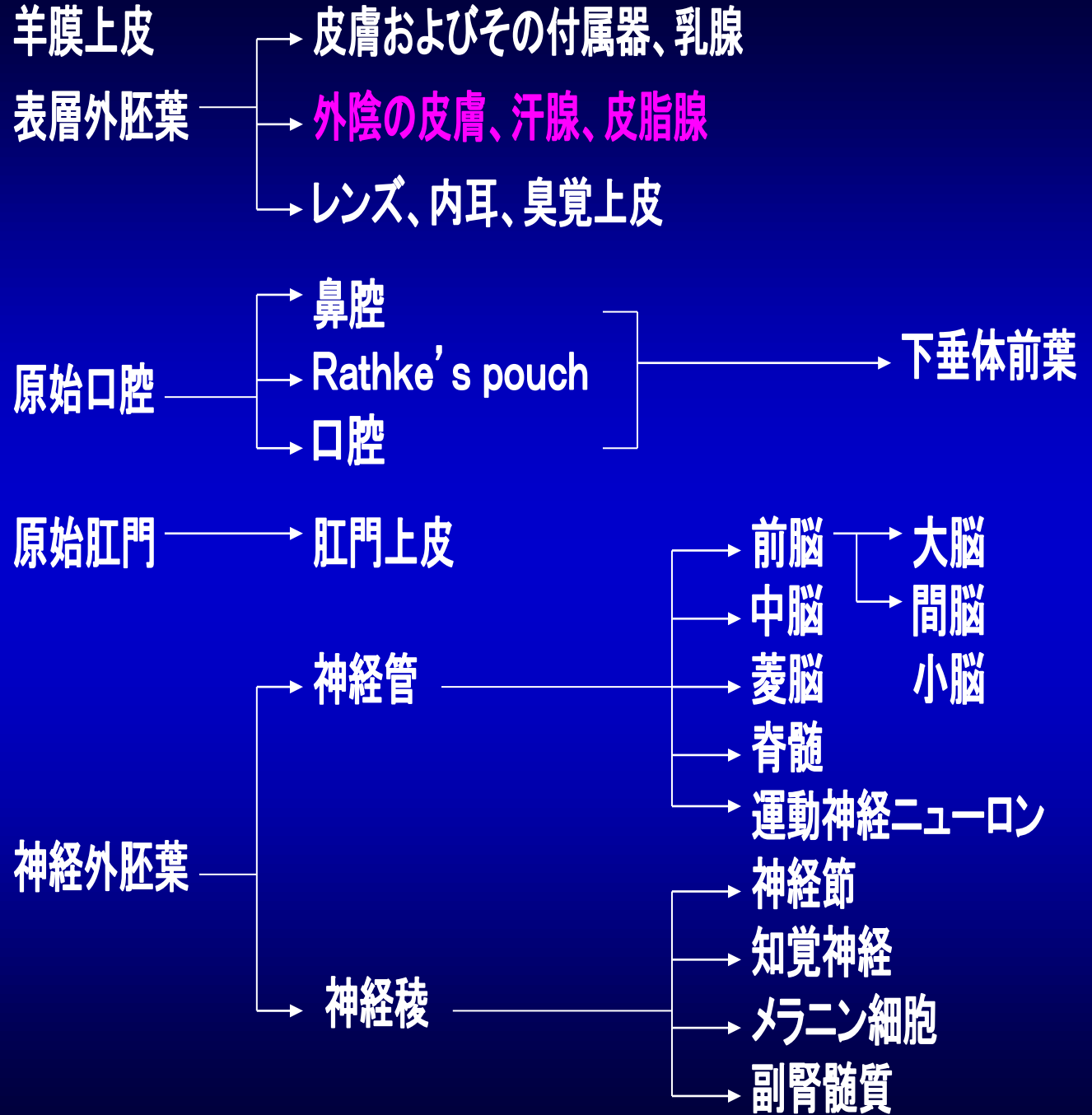
- 中耳
- 副甲状腺
- 胸腺
- 口腔・舌
- 甲状腺
- 咽頭
- 気管・肺
- 食道
- 胃
- 肝・膵
- 十二指腸
- 空腸
- 回腸
- 結腸
- 直腸
- 膀胱
- 尿道
- 陰前庭
- Bartholin腺
- 前立腺

中胚葉に由来する臓器・組織

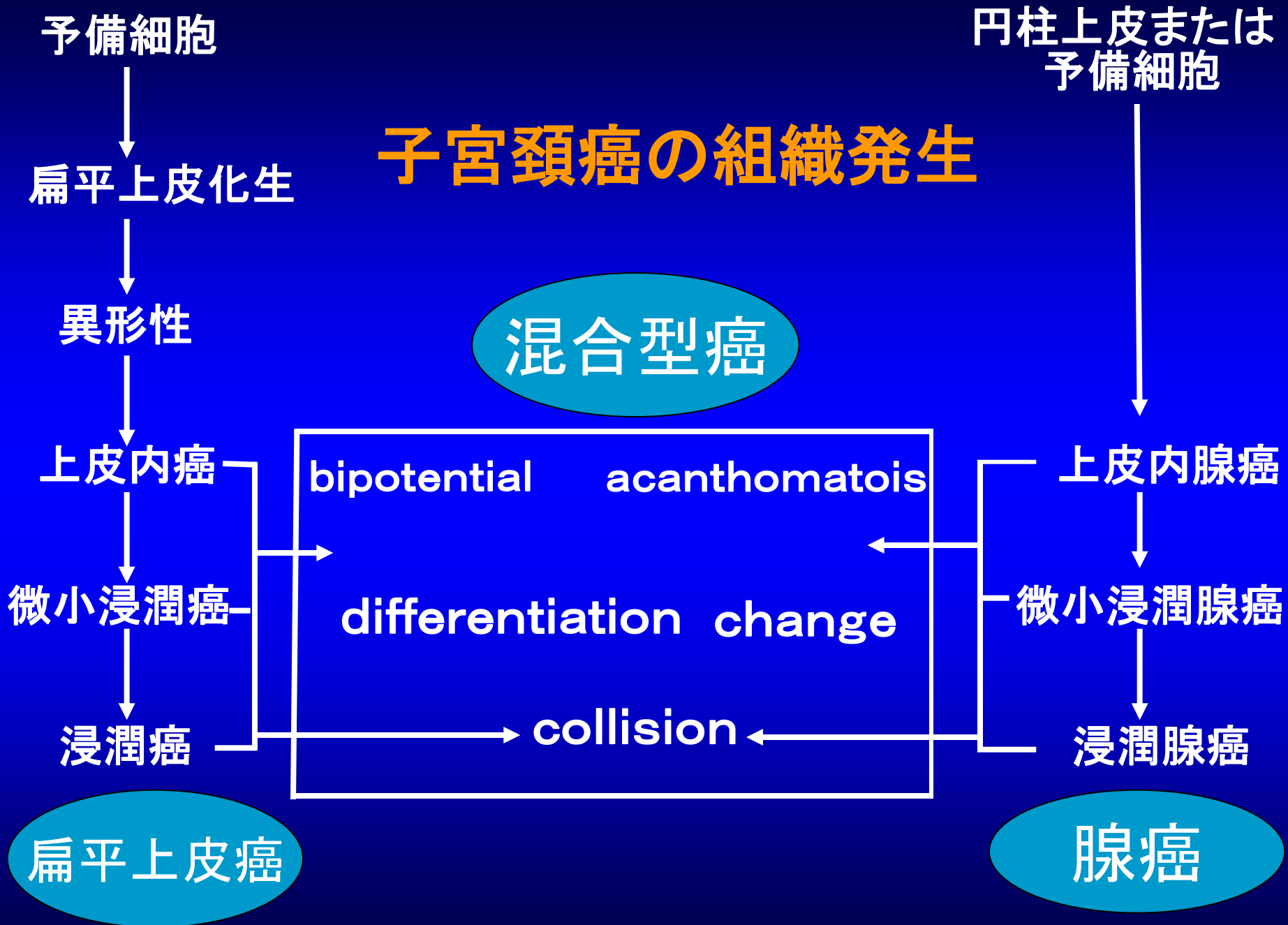


外胚葉に由来する 臓器・組織

外胚葉



子宮頸癌の組織発生



予備細胞について

- 腺・扁平両方への分化
- 扁平系ケラチン№5, 6, 14, 15, 16
- 腺系ケラチン№7, 8, 17, 18, 19の存在有り。
- SCJ(扁平側): 角化型異形成、角化型上皮内癌、
角化型扁平上皮癌
- SCJ(中間、化生部位): 非角化型化生異形成、
中等度分化型上皮内癌
- SCJ(腺系部位): 退形成上皮内癌、上皮内腺癌、腺癌

異型予備細胞増殖

細胞所見:

CISと類似性あり。裸核、シート状集塊、核の鑄型、細胞質不明瞭、核は類円形～橢円形・じゃがいも状核縁一部突起 ASC-H,AGCと判定

ARCHの分類:

1. 核大小不同タイプ扁平系CIS類似
2. 単一形態タイプ腺系、AIS類似

前癌病変、早期癌の定義

前癌病変や早期癌の確固たる定義は、各臓器、分子病理学的立場により異なり、またそれらの病変が存在しないものもあるが、一応下記の内容が当てはまる。

明らかな癌のような細胞異型、組織学的異型を認めない、もし認めても、浸潤病変がなく(上皮内病変)、癌の発生過程、あるいは初期にあり、治療を行えば、治癒可能であると定義することができる。

(Potentially curable cancer)

頸部病変

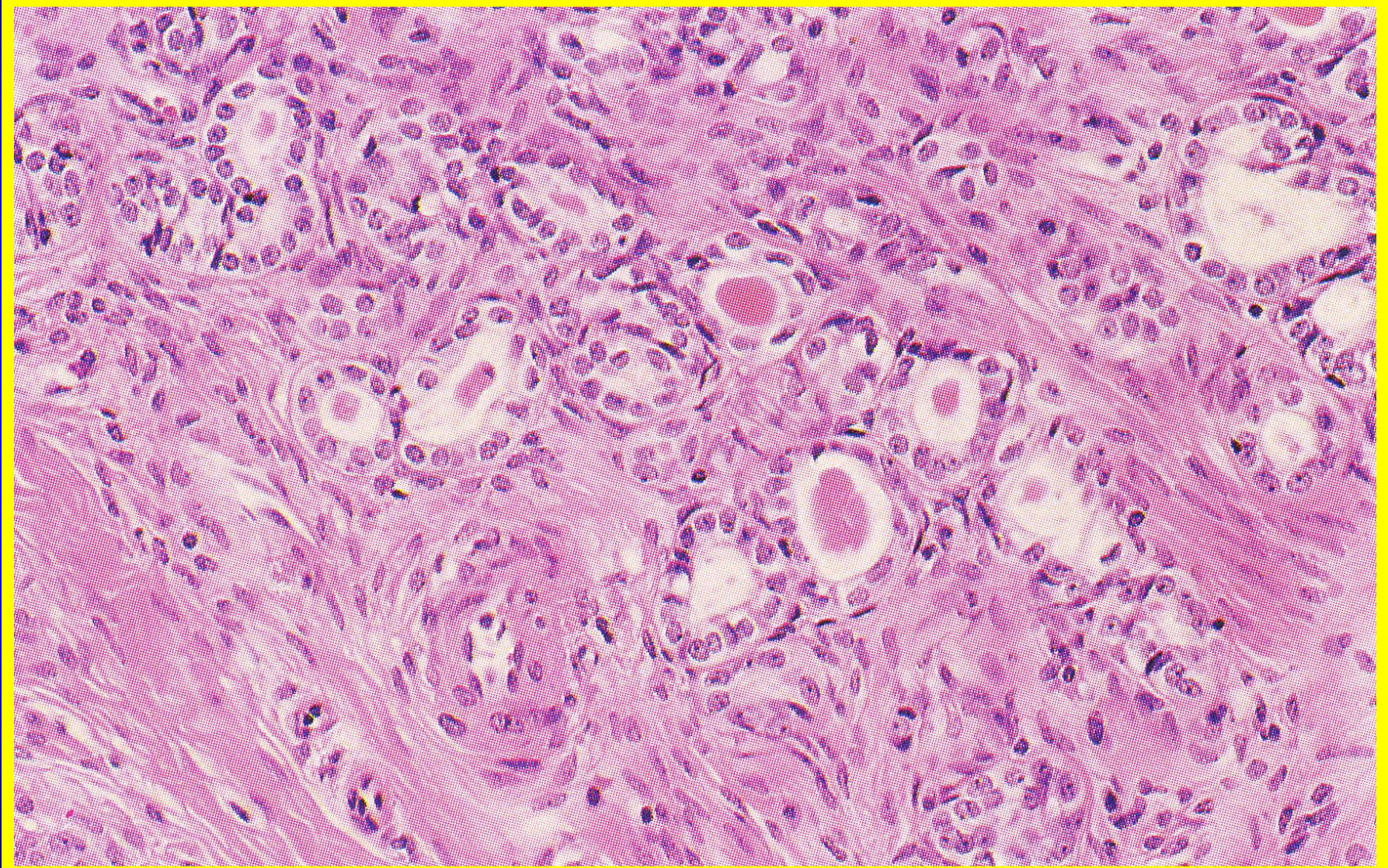
前癌病変、早期癌の種類

- 上皮内腺癌 AIS
- 腺異形成 AGC
- 微小浸潤腺癌 (I a期)

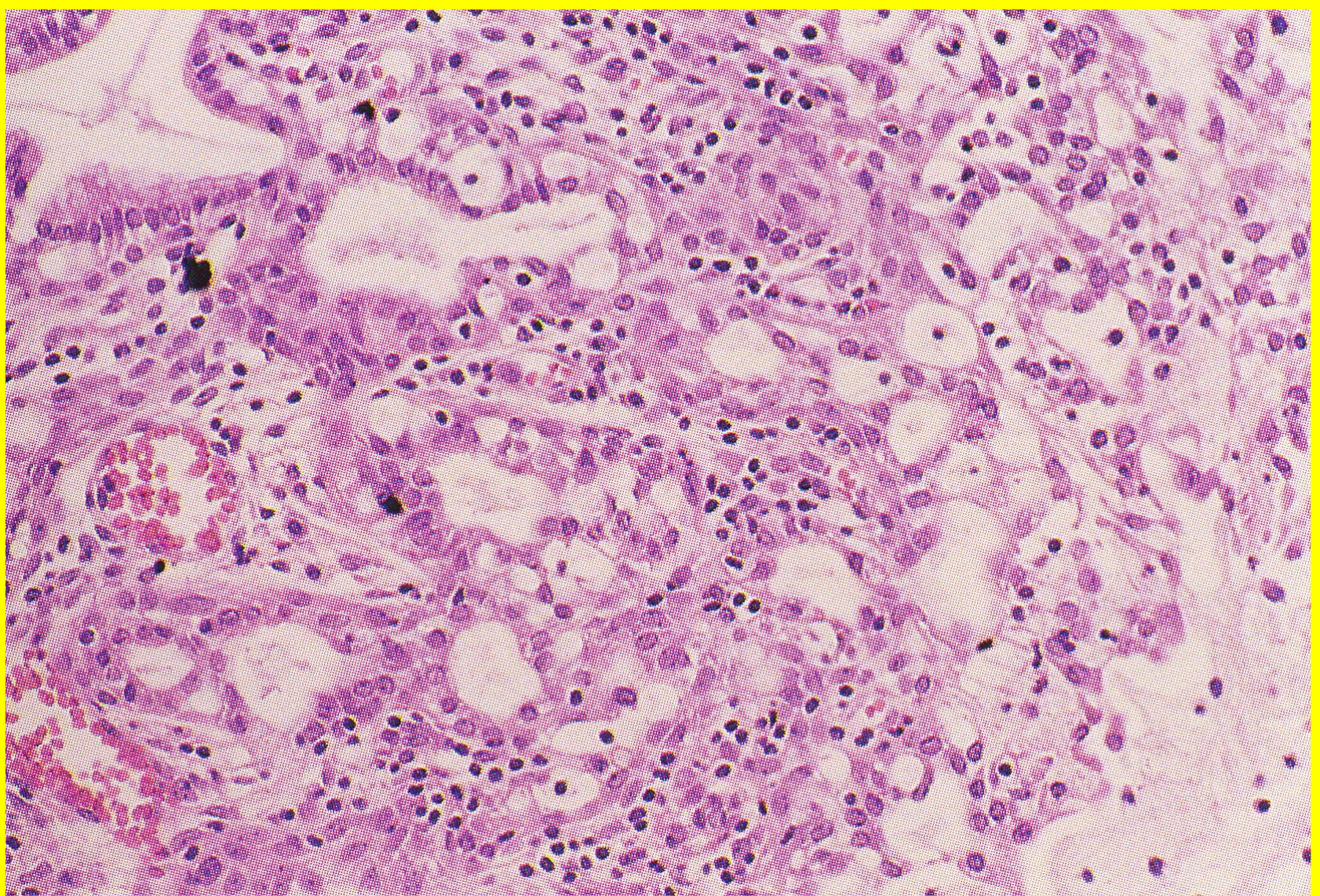
腺異形成と鑑別を要する疾患

- Gartner管過形成
- 微小腺過形成
- 腺腫様過形成
- 卵管化生
- 子宮内膜化生
- 再生化生
- 以上AGC-NOSの可能性あり

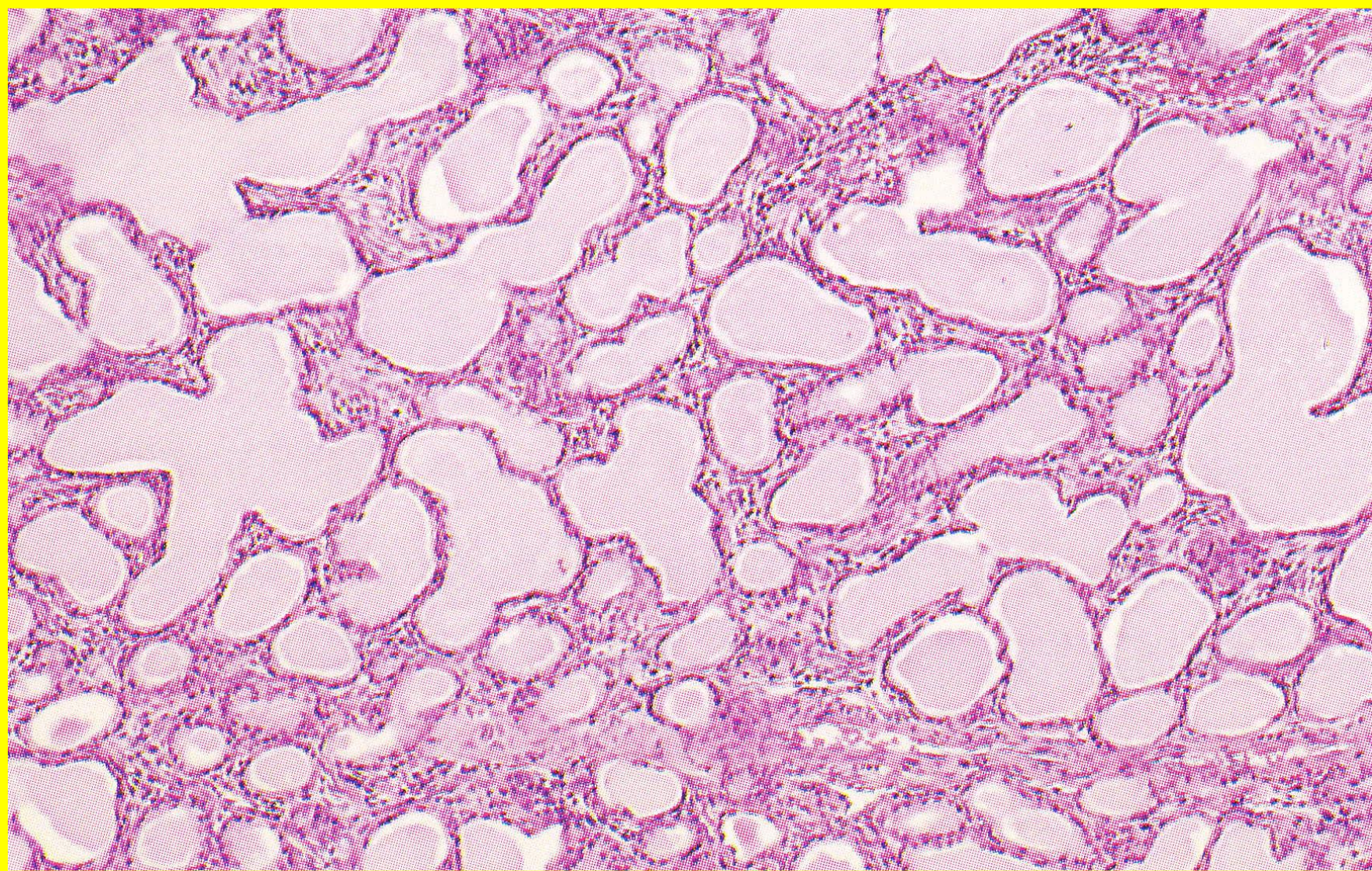
Gartner管過形成



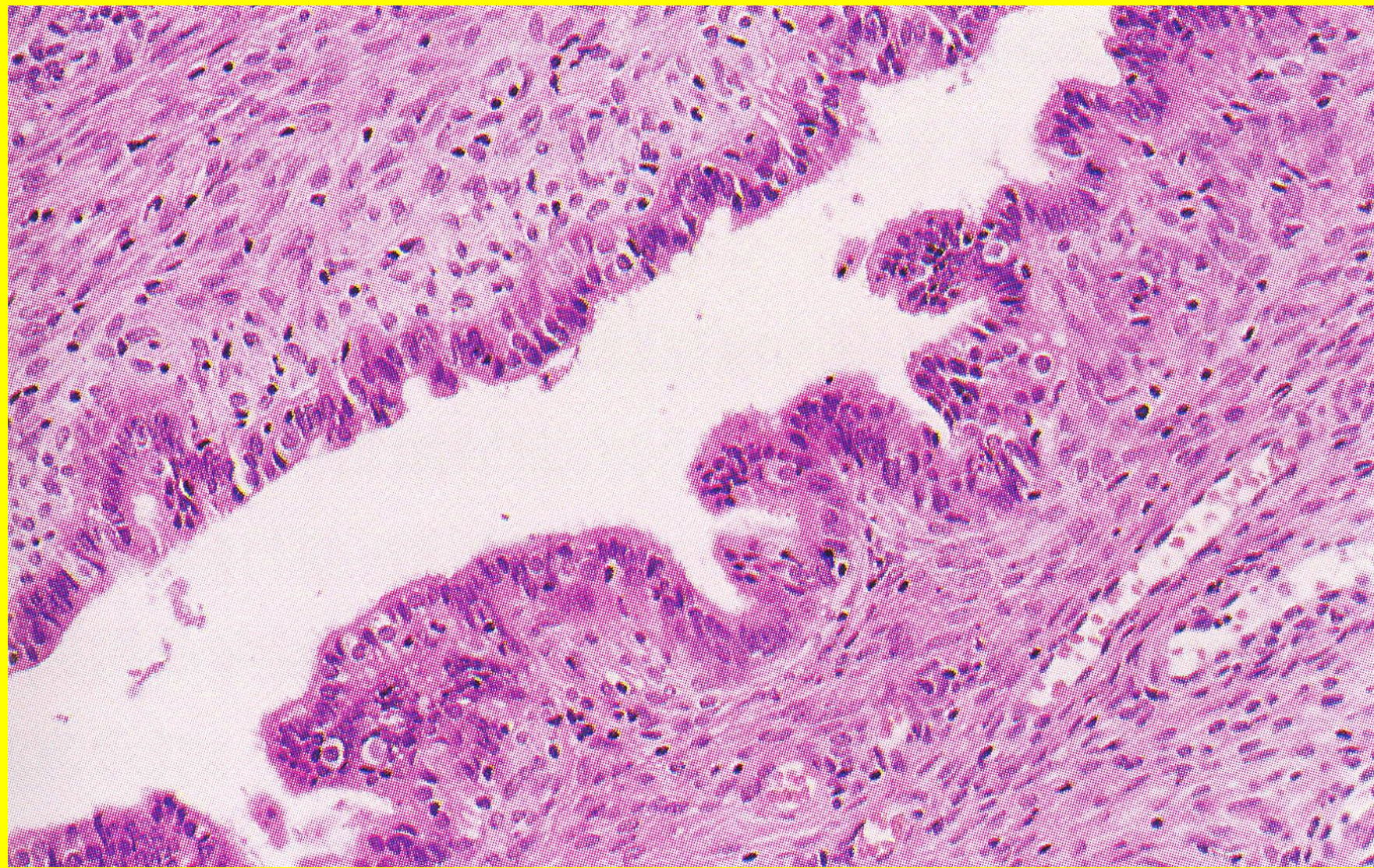
微小腺過形成



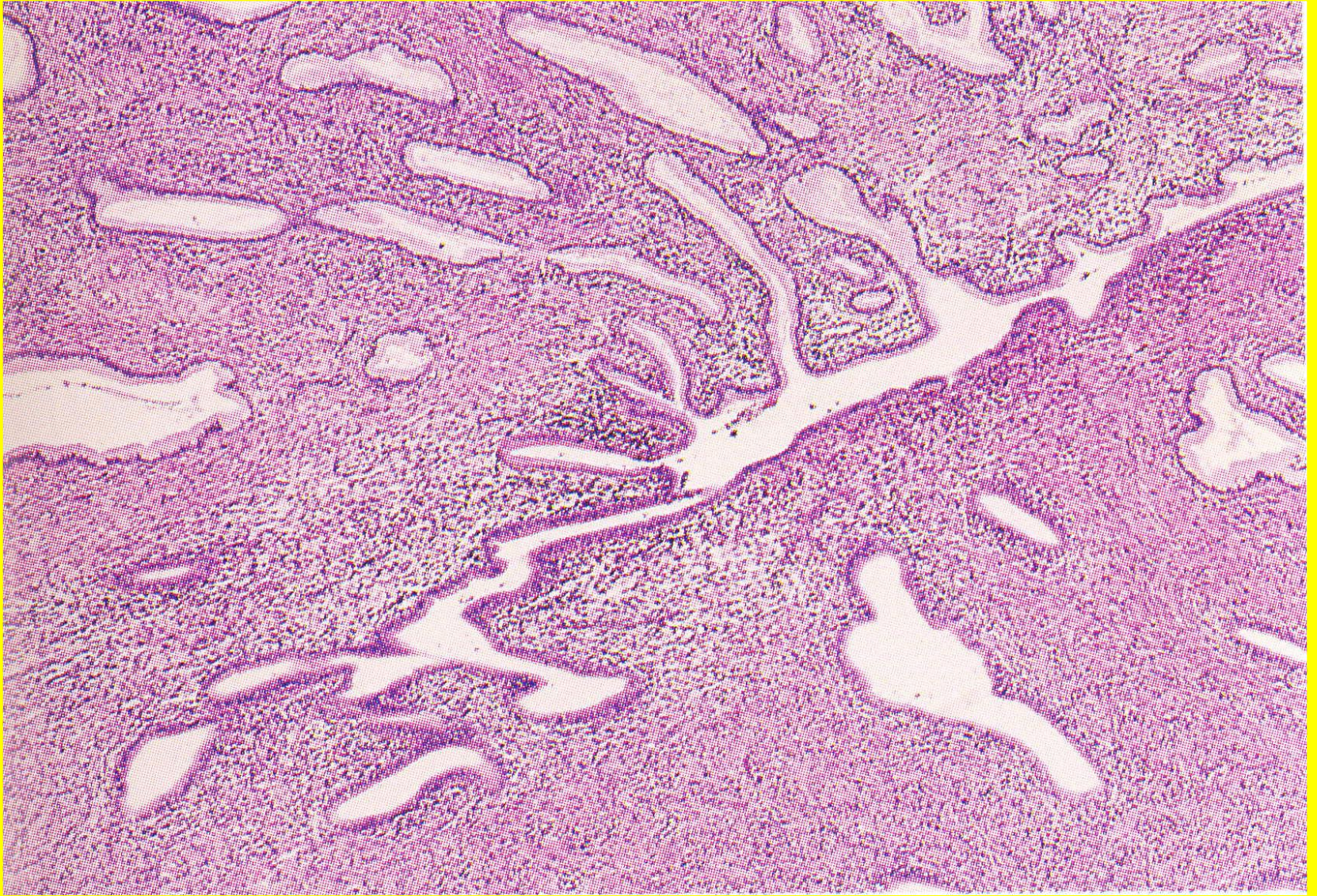
腺腫樣腺過形成



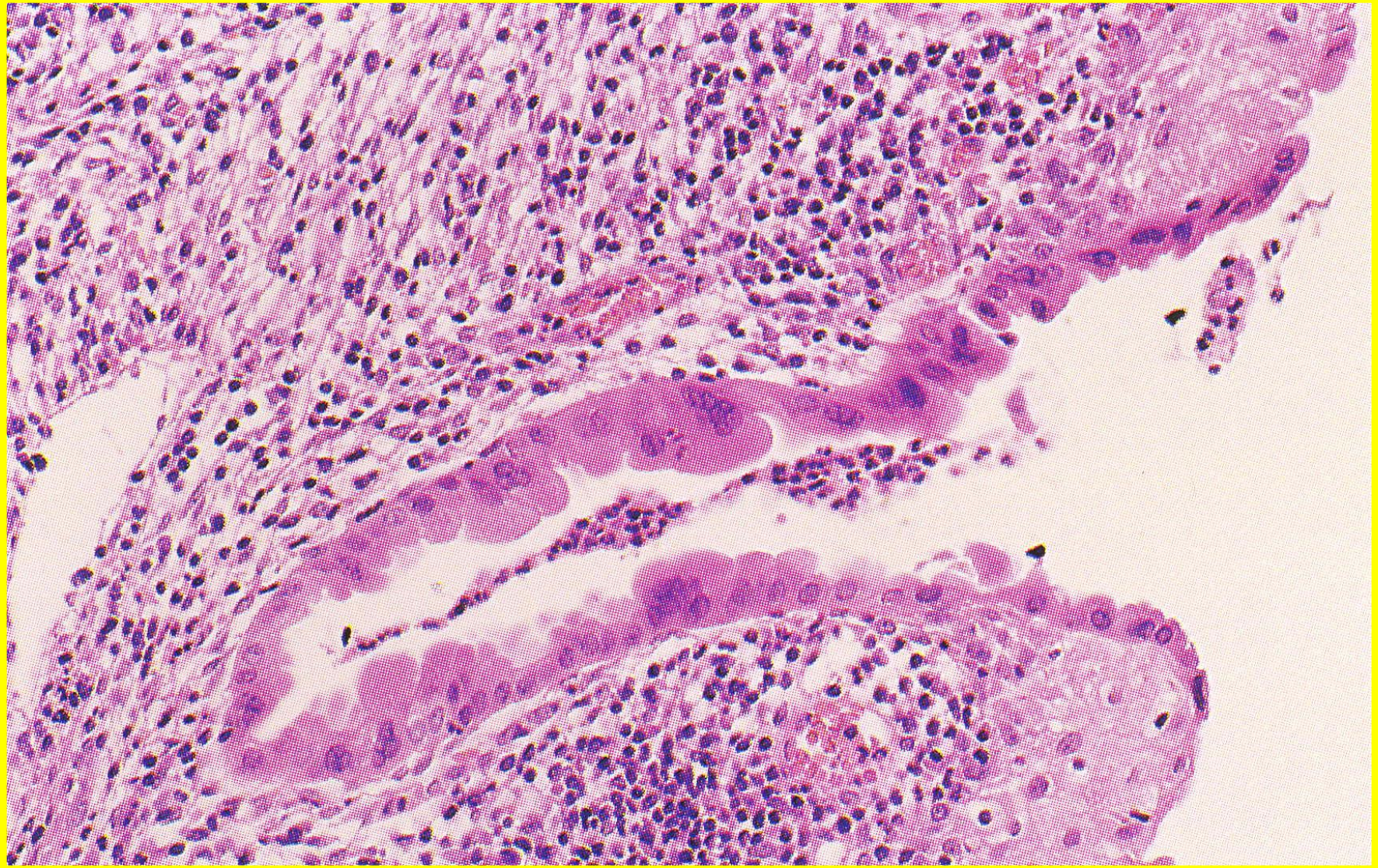
卵管化生



子宮内膜化生



再生上皮



頰癌取り扱ひ規約上の腺病変

- 1 内頰部ポリープ AGC-NOS
- 2 ミュラー管乳頭腫 AGC-NOS
- 3 腺異形成 AGC-NOS
- 4 上皮内腺癌 AIS
- 5 微小浸潤腺癌 Adeno
- 6 腺癌 Adeno (粘液性腺癌、類内膜腺癌、
明細胞腺癌、漿液性腺癌、中腎性腺癌)

内頸部ポリープ

endocervical polyp

頸管内に突出し、
内頸腺と線維性間質よりなる
病変を言う

ミュラー管乳頭腫

mullerian papilloma

単発又は、多発の乳頭状病変で、ミュラー管の円柱上皮が時に扁平上皮化生を伴って細い線維性血管性の茎の表面を覆って増殖する病変を言う。

腺異形成

glandular dysplasia

核の異常が、反応性異型よりも高度であるが、
上皮内腺癌の診断基準を満たさない腺上皮の
病変を言う。 AGC-FN

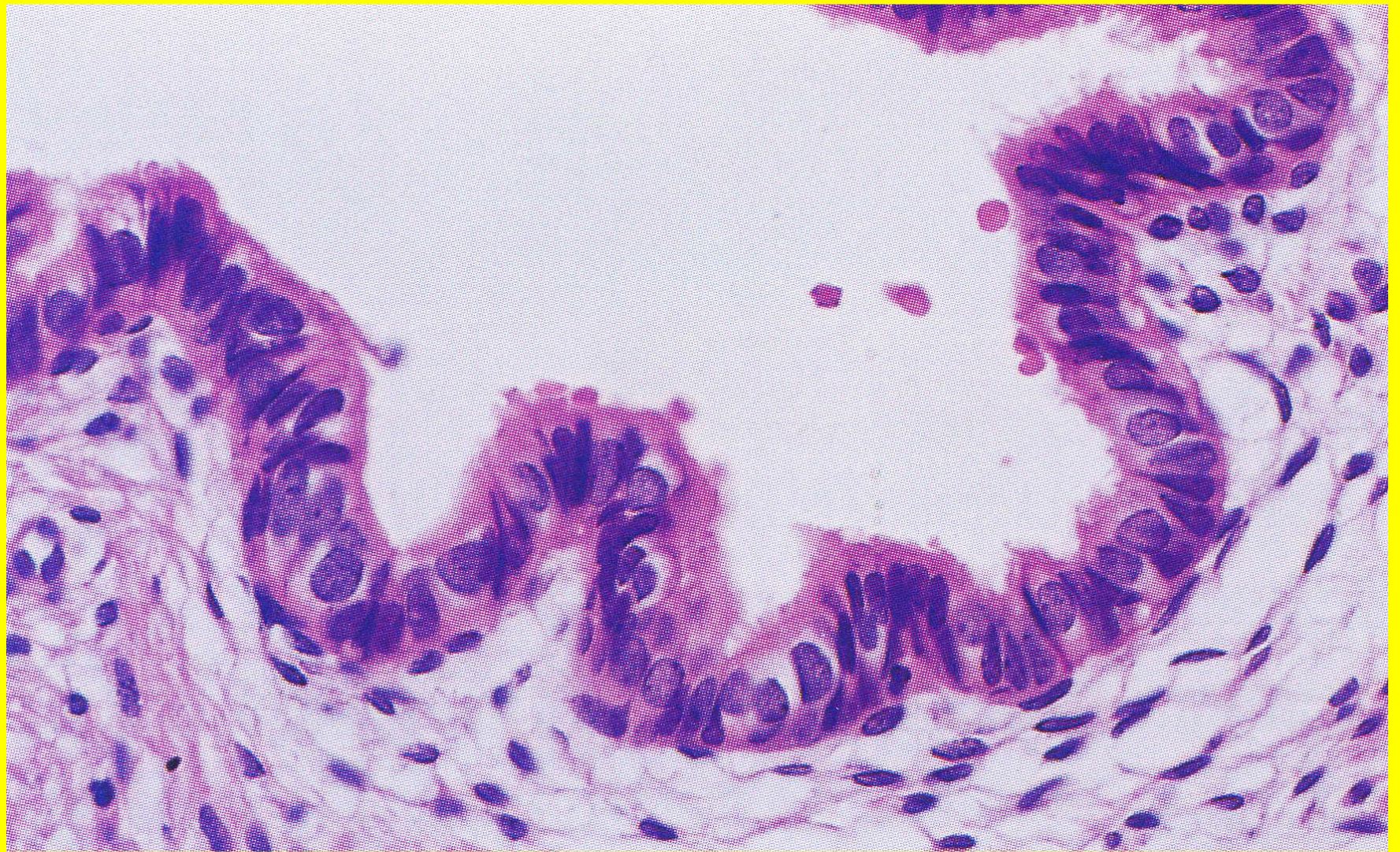
腺異形成の組織学的判定基準

	軽度腺異型	高度腺異型	上皮内癌
核	紡錘型	紡錘～不整形	紡錘～不整形
核クロマチン	微細	クロマチンに富む	クロマチンに富む
核分裂像	なし	まれ	しばしば出現
N/C比	軽度上昇	高度上昇	高度上昇
核の重層化	基底側に1列 ときに重層	しばしば管腔側まで	しばしば管腔側まで
構造異型	なし	ときに認められる	ときに認められる

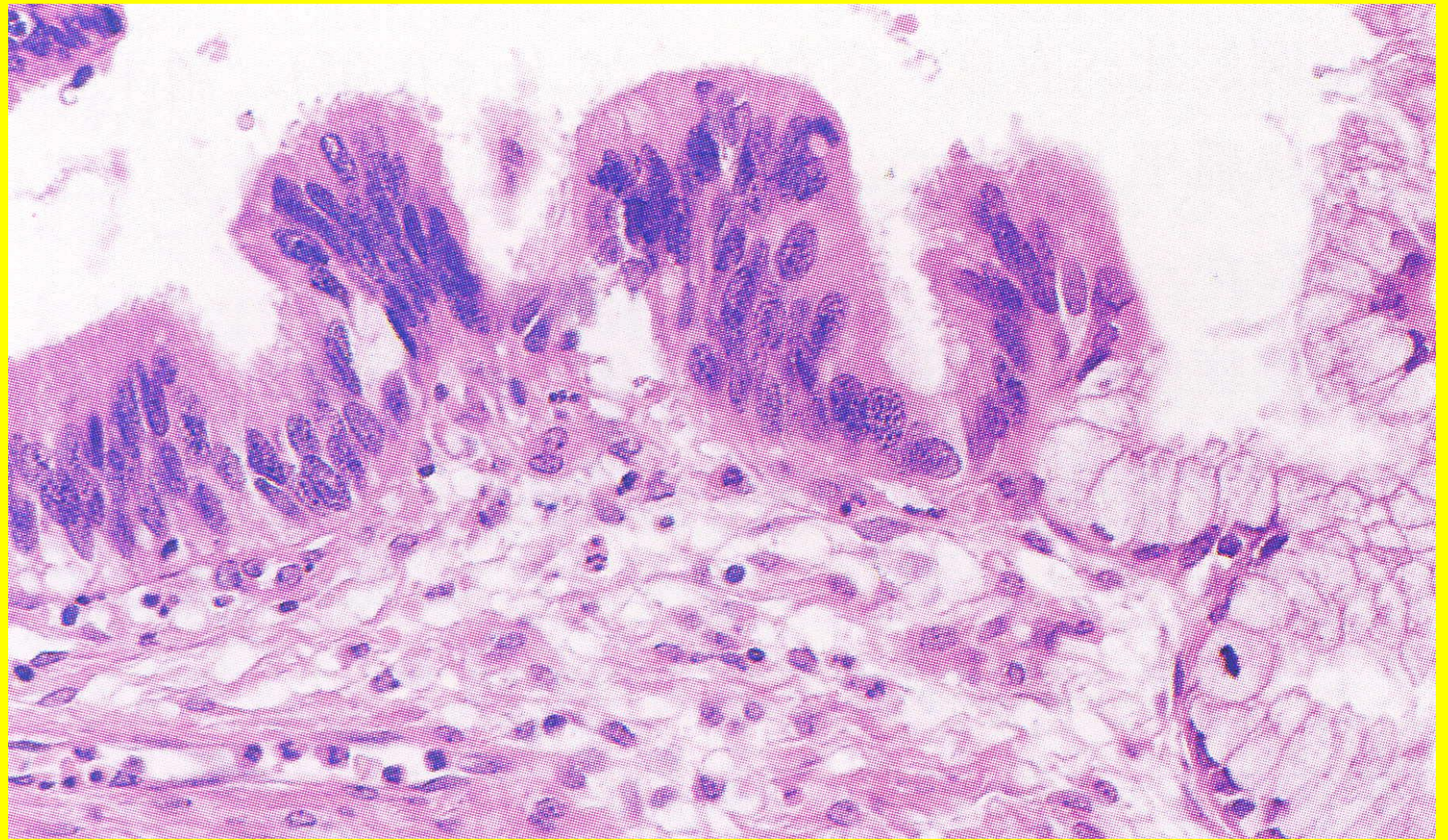
轻度腺异形形成



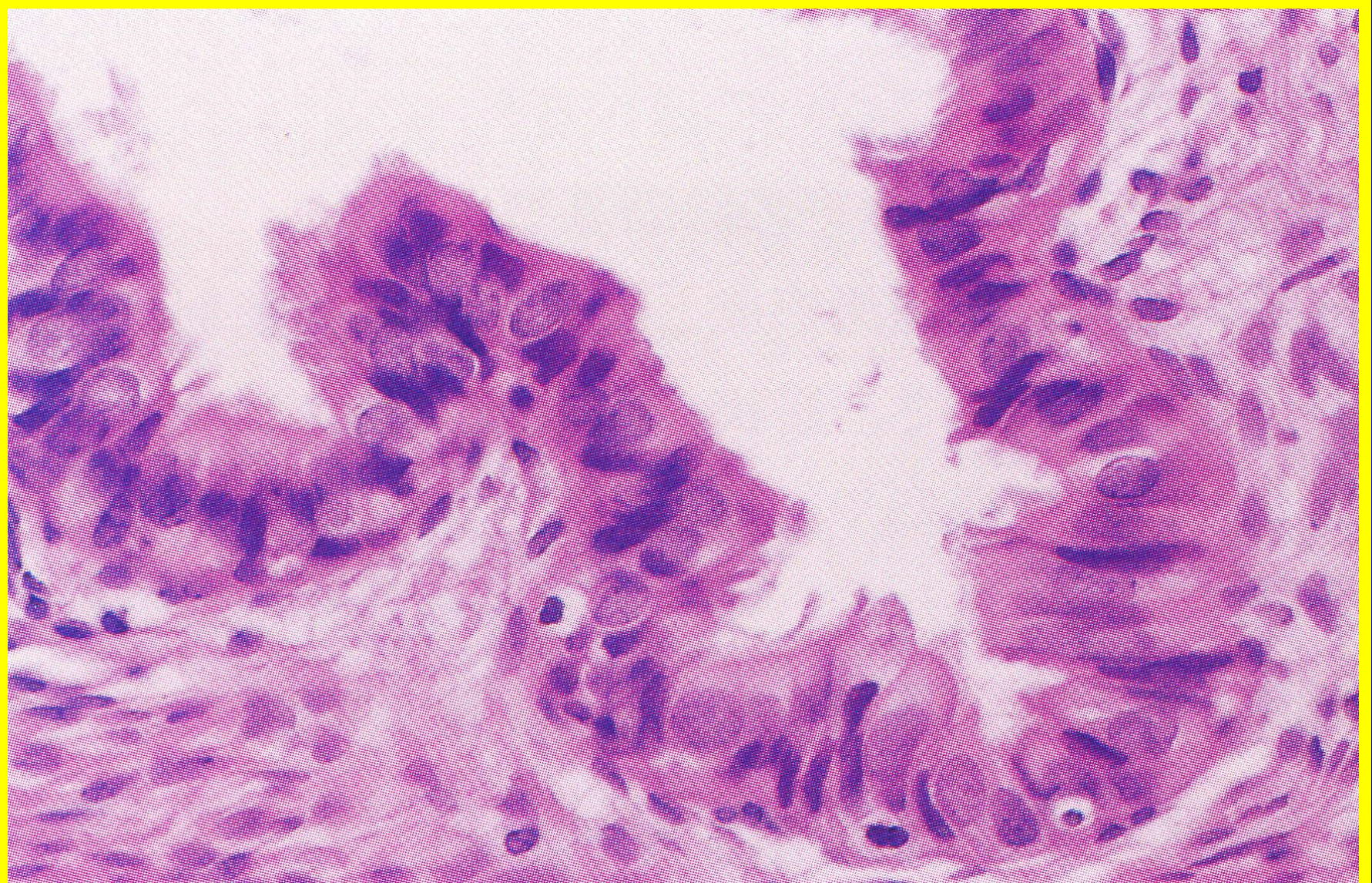
轻度腺异形成



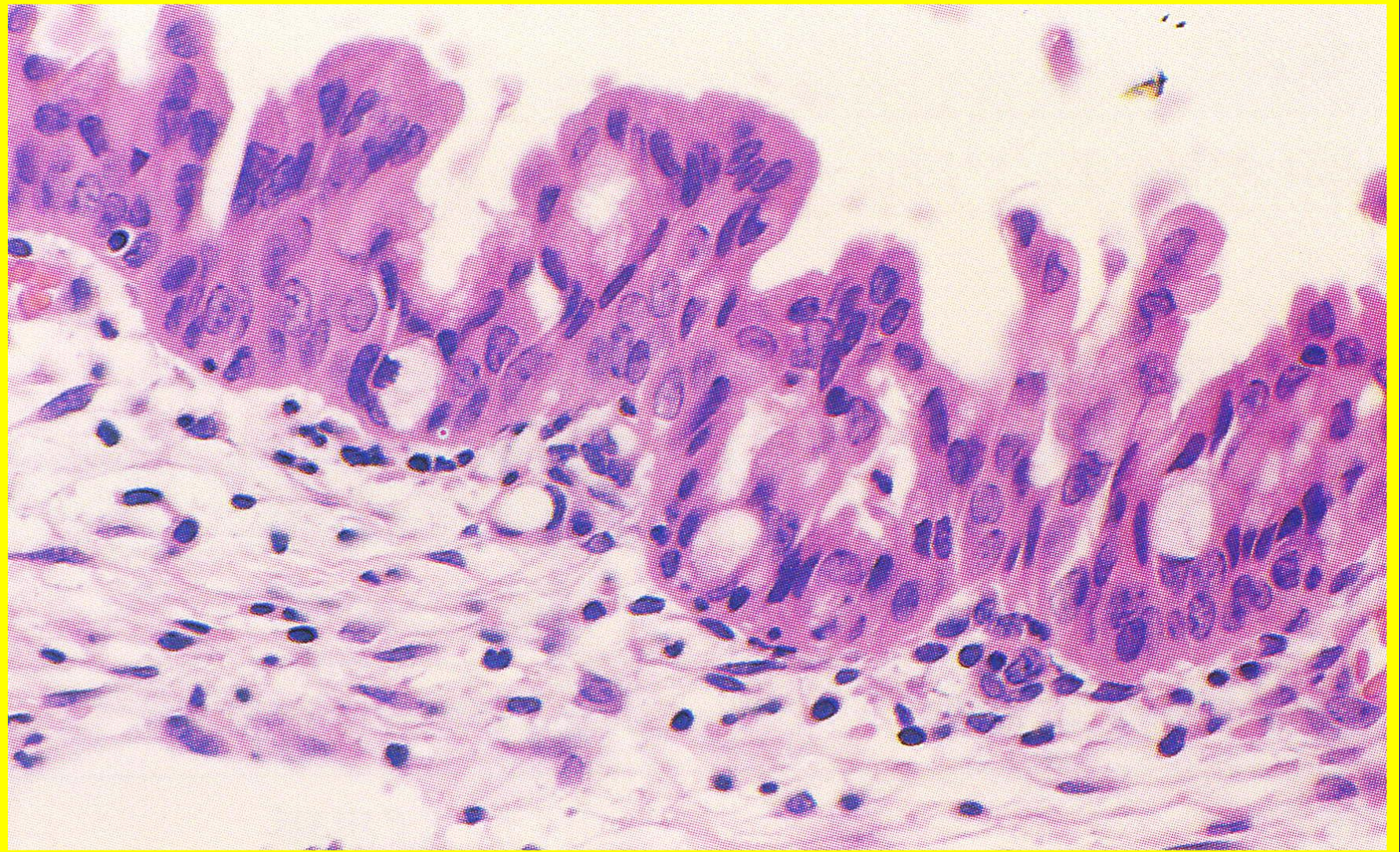
中等度腺異形成



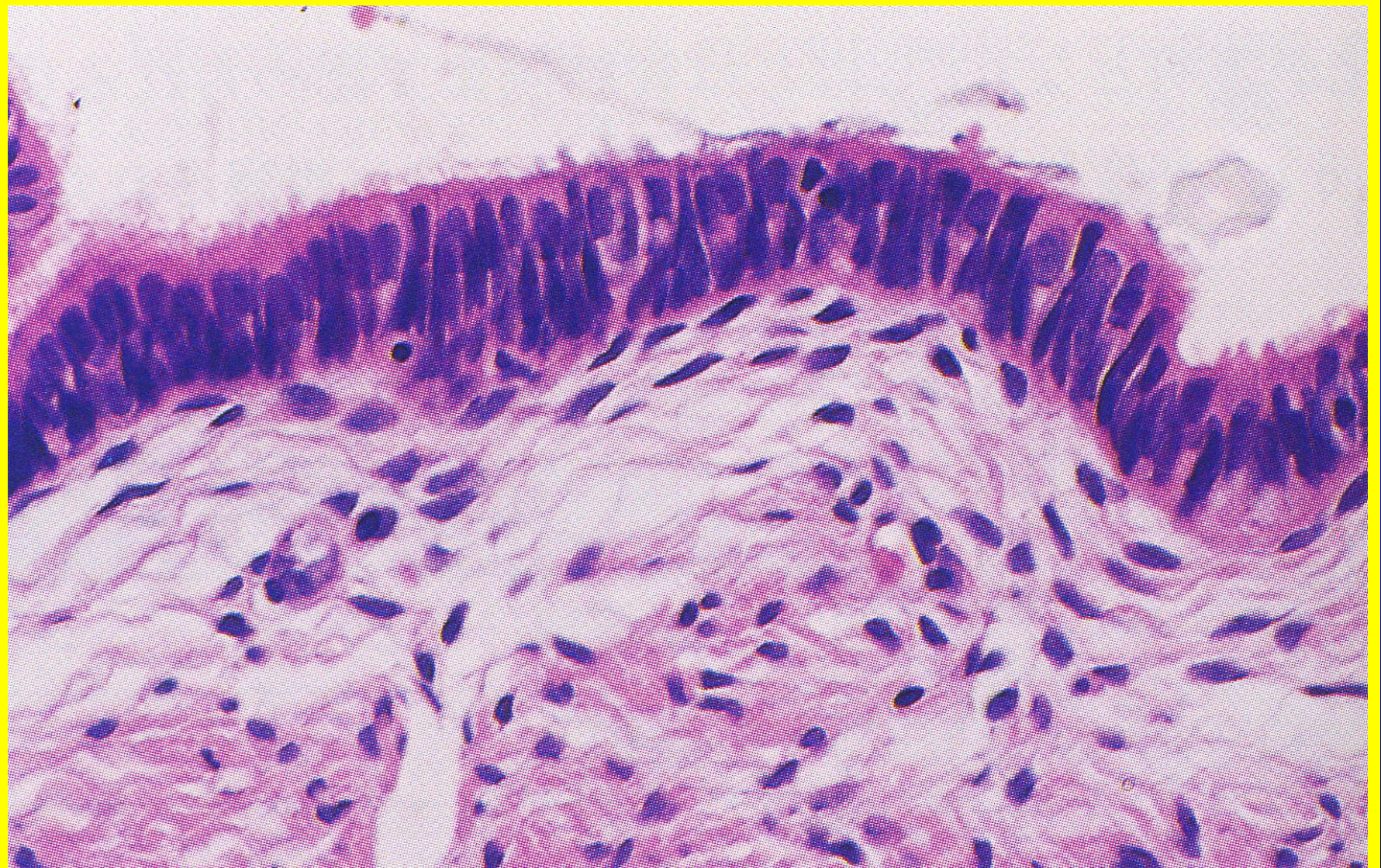
中等度腺異形成



高度腺異形成



高度腺異形成



上皮内腺癌

adenocarcinoma in situ

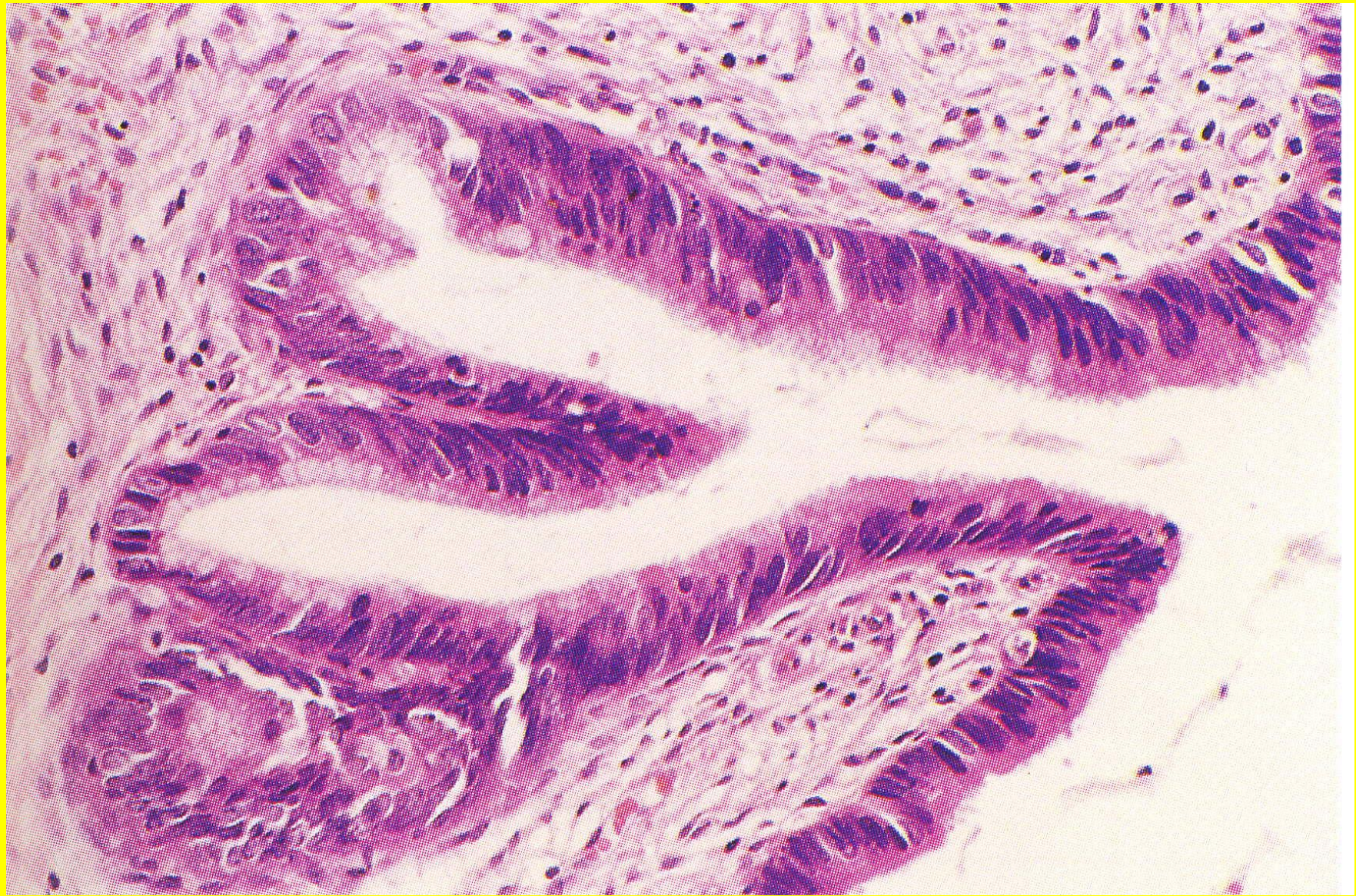
細胞学的に、悪性の腺上皮細胞が正常の内頸腺の構造を保ったまま上皮を置換して増殖するが、間質への浸潤を示さない病変を言う。

微小浸潤癌

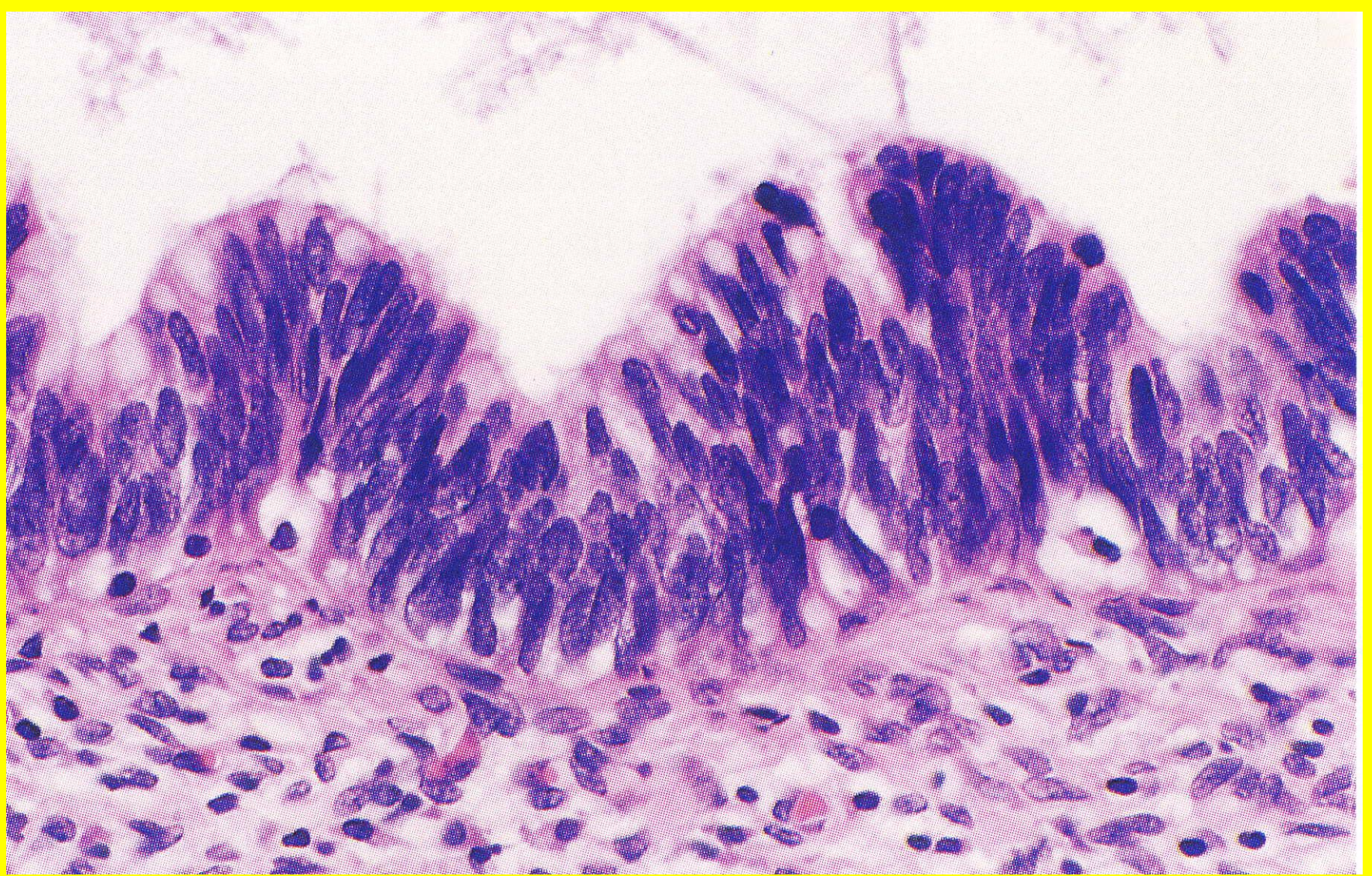
maicroinvasive adenocarcinoma

正常の内頸腺領域に局限し、微小浸潤を示す腺癌である。微小浸潤とは腺癌上皮の間質への芽出を認め、その輪郭が滑らかなものを言う。
I a期に分類する。

上皮内腺癌



上皮内腺癌



子宮頸部腺系異常の出現パターン

	標本背景	出現細胞数	核重積	柵状配列	羽毛状辺縁	平面的配列	孤立異型細胞	細胞異型
腺異形性 軽～中等度	炎症性	採取法により相違	軽度	軽度 少ない	無	有	無	軽度
高度腺異形性 ～上皮内腺癌	炎症性	小～多	採取法により	軽～高度	採取法によるが 少ない	無	稀	中程度～ 高度
微小浸潤腺癌	炎症性 ～出血		軽～高度	中等度 ～高度	小～中 程度	無～ 有	有 (少)	中程度～ 高度
浸潤腺癌	腫瘍性	多	中等度 ～高度	高度	多く 見られる	有	有 (多)	高度

子宮頸部腺癌(0期、I期)腺癌細胞の出現パターン

臨床 進行期	標本 背景	腺 集 群					出現 細胞数	シート状合 胞状集塊	孤立性 細胞
		核重積	腺管 配列	柵状 配列	羽毛状 辺縁	ブドウ房状 辺縁			
0期 (上皮内 腺癌)	炎症性	採取法 により相違 軽~高	有	有	採取法に より相違 有、無	無	採取法に より相違 少~多	無 ときに有	無 ときに有
I a期 微小 浸潤腺癌	炎症性 (ときに 腫瘍性)					有 (ときに無)		有 比較的少	有 比較的少
I b期 明瞭な 浸潤腺癌	腫瘍性					有		多	有 比較的少

子宮頸部腺癌(0期・I期)の細胞診所見-腺癌細胞の核所見

臨床 進行期		クロマチン		核小体					
		性状	不均等 分布	1個	2個	3個 以上	小型	大型	
0期 (上皮内腺癌)		細顆粒状 opaque状	少	多	無～少	無 ～ 少	多	無	
I期	I a期 (微小浸 潤腺癌)	細顆粒状 opaque状 (ときに粗顆粒状)	比較的 少		少～比 較的多			無 ～ 少	無～少
	I b期 (明瞭な 浸潤腺癌)	細顆粒状 顆粒状 opaque状	多		比較的 多			比較的 多	少～比 較的多

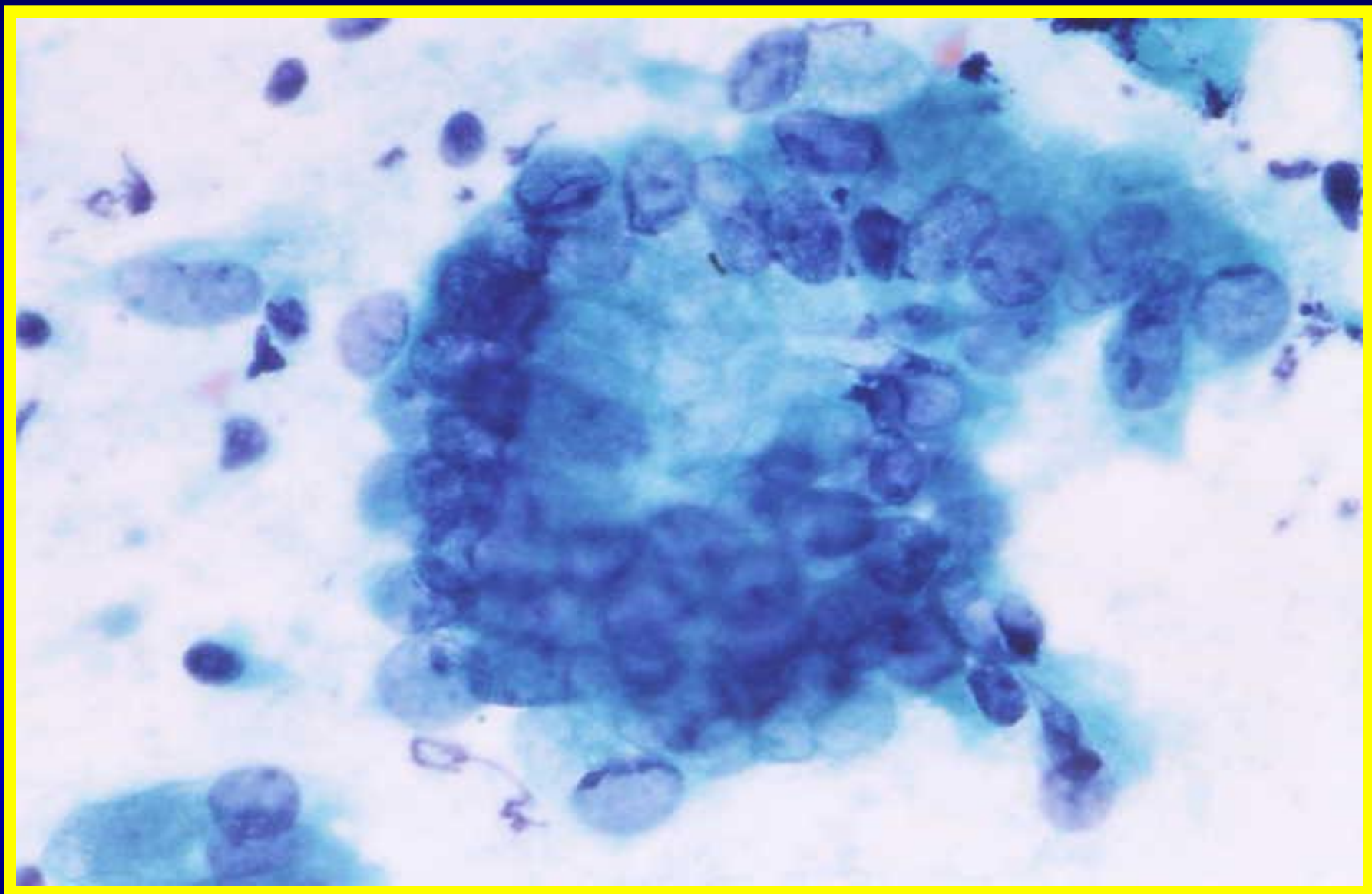
初期腺病変の検出率について

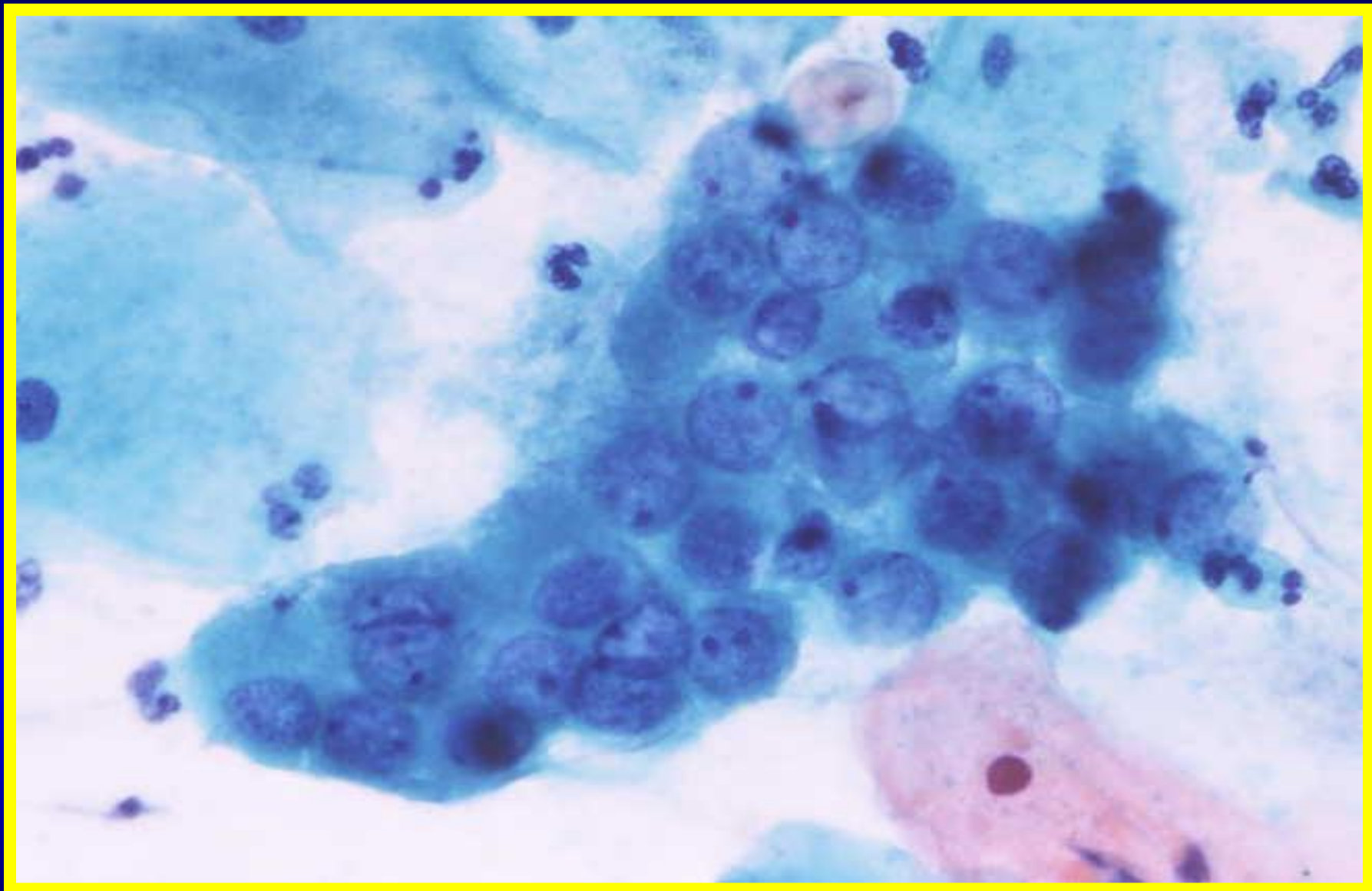
- 頸部初期病変での細胞診での発見率は、採取方法によりほぼ決定される。従来使用されていた綿球、綿棒では検出率は低く、スーパーテルやブラシ法で採取されるべきである。
- 生検での検出も低い。これはコルポの特異的所見がなく、生検部位の確認が困難な為。
- 組織学的な検索はできれば円錐切除による検索が望ましい。

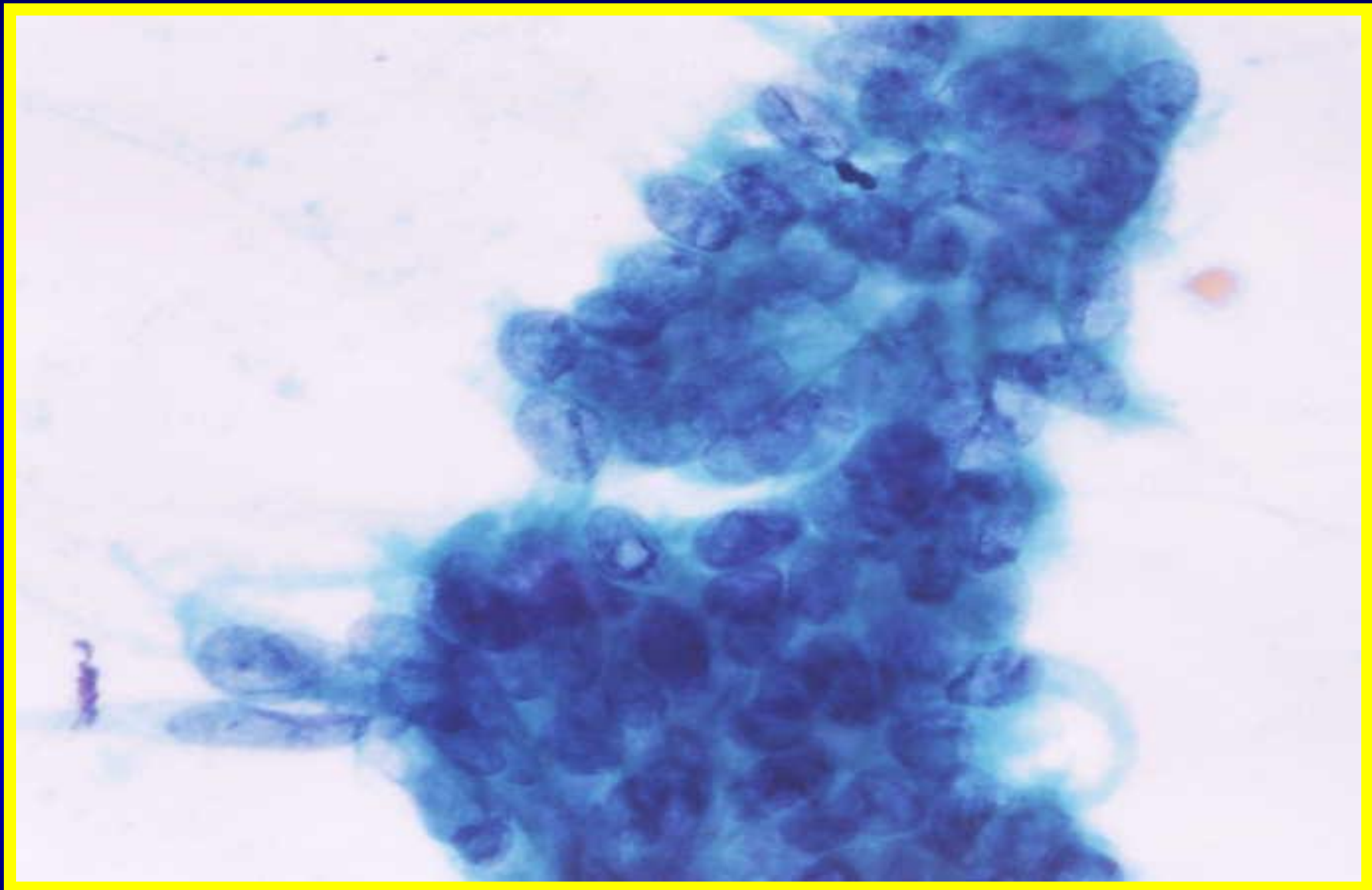
頸部腺病変の治療

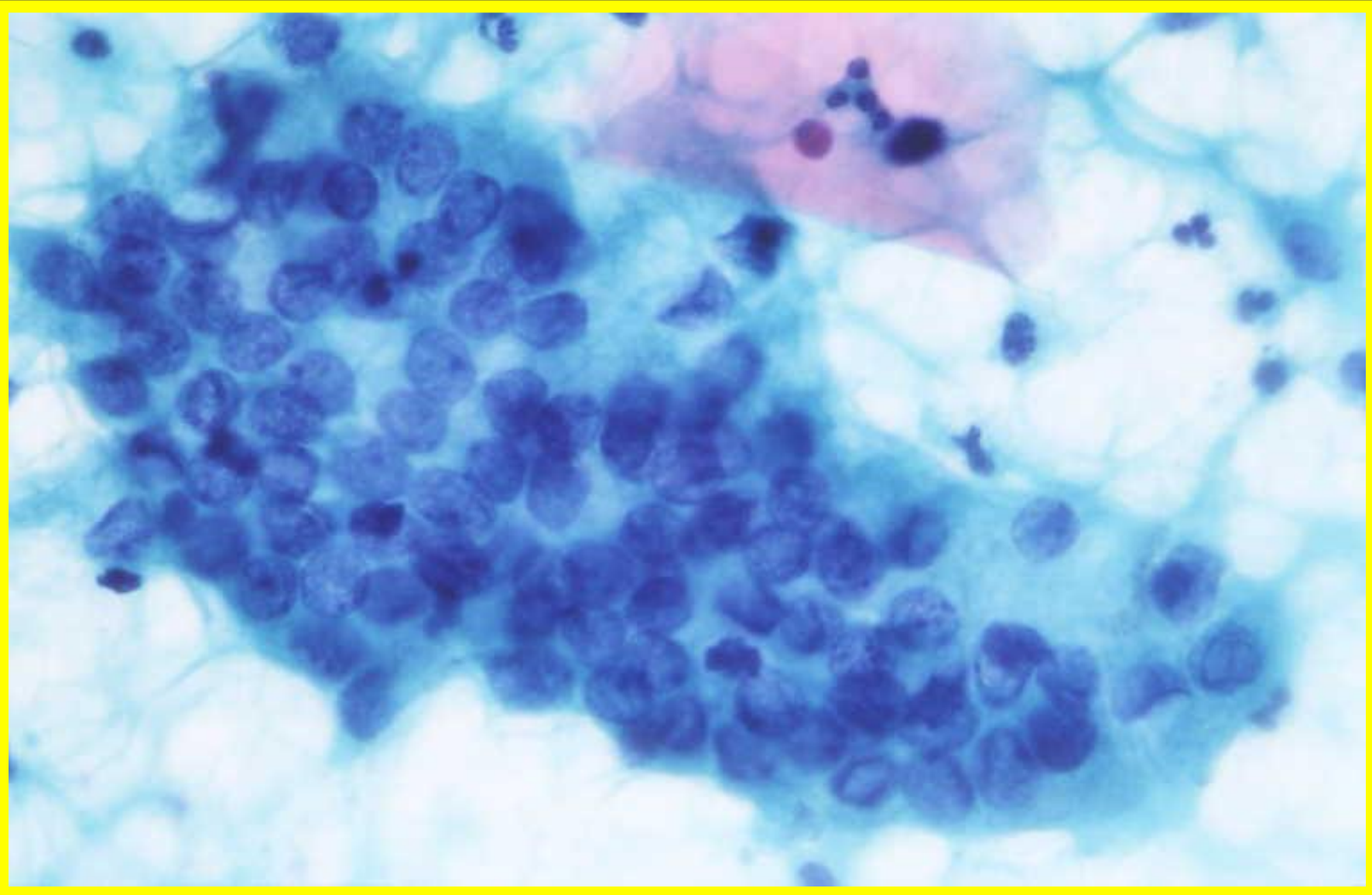
- 腺異形成 =経過観察～円錐切除。
- AIS =円錐切除。
- 微小浸潤腺癌 =円錐切除～単純摘出。

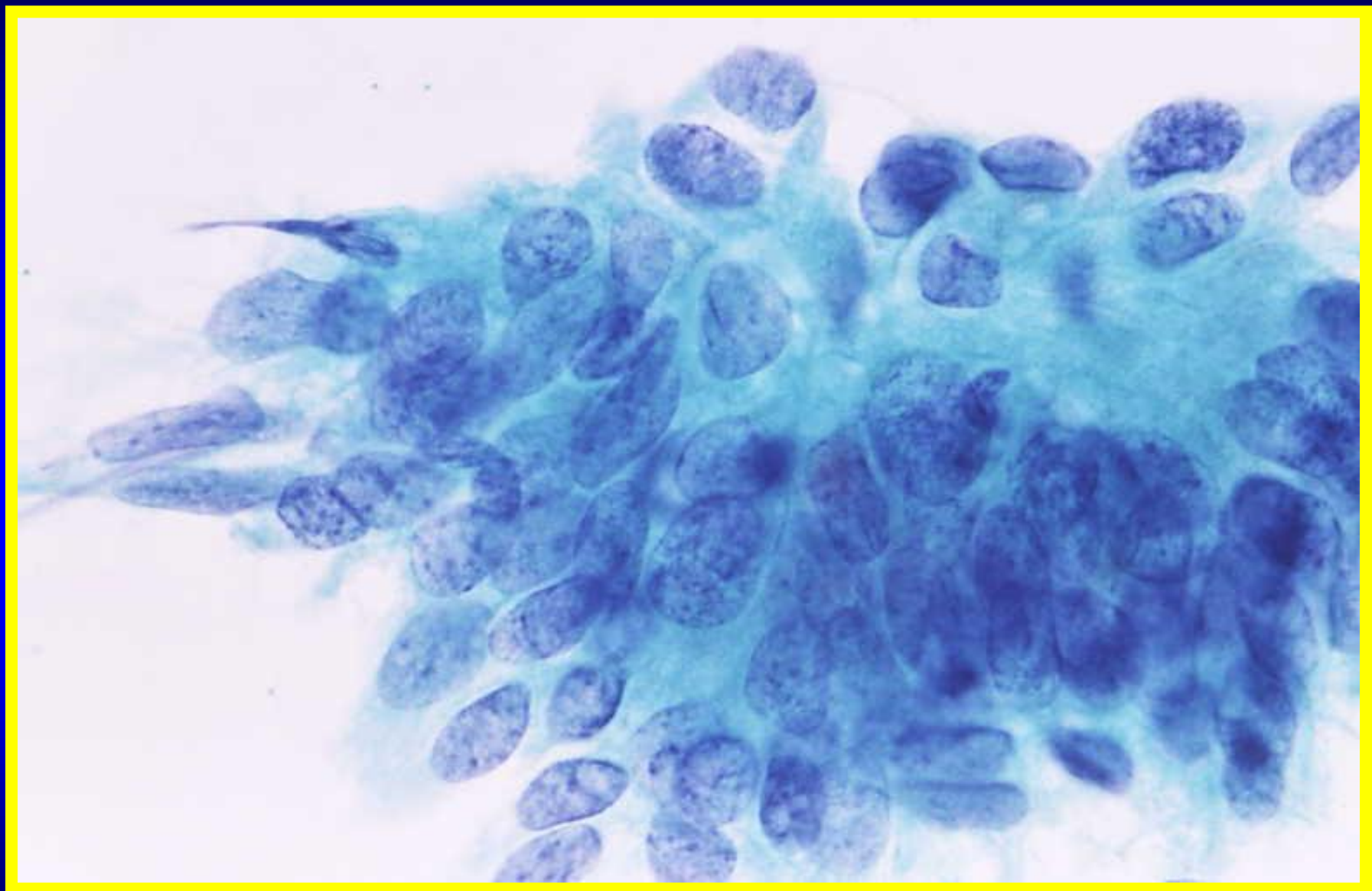
円錐切除では再発可能性あるため、
臨床事項等、充分注意する必要有り。

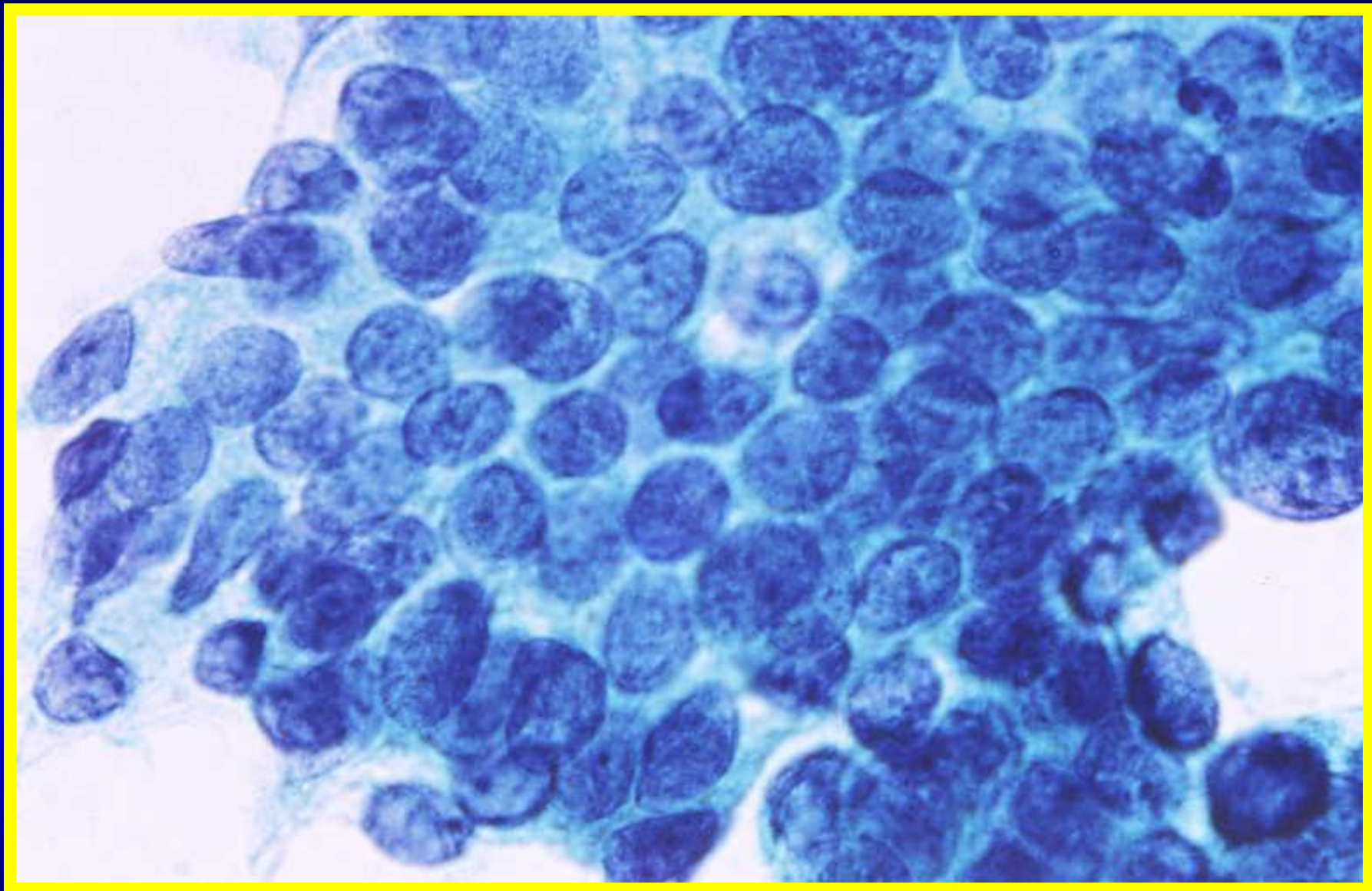




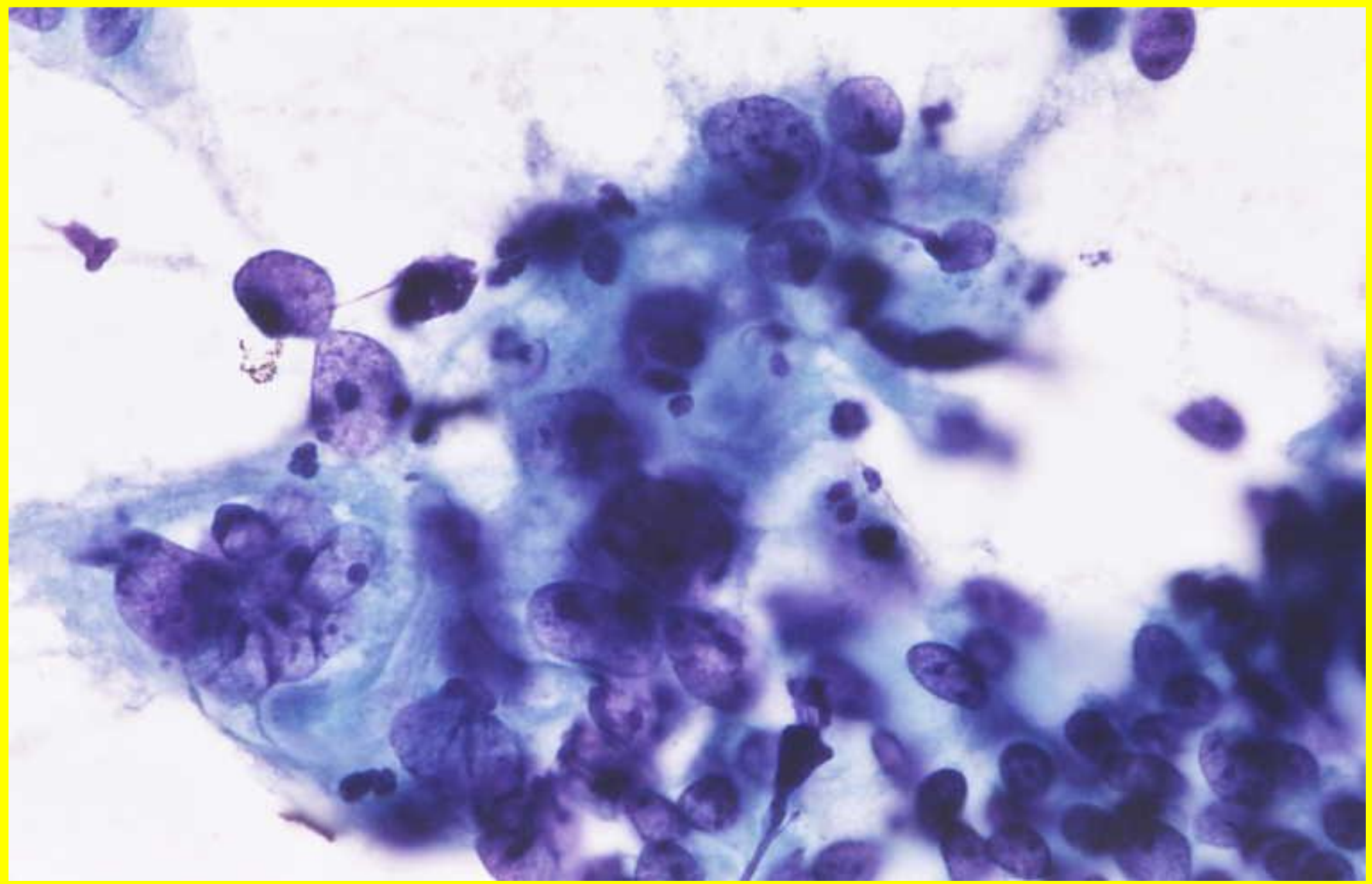


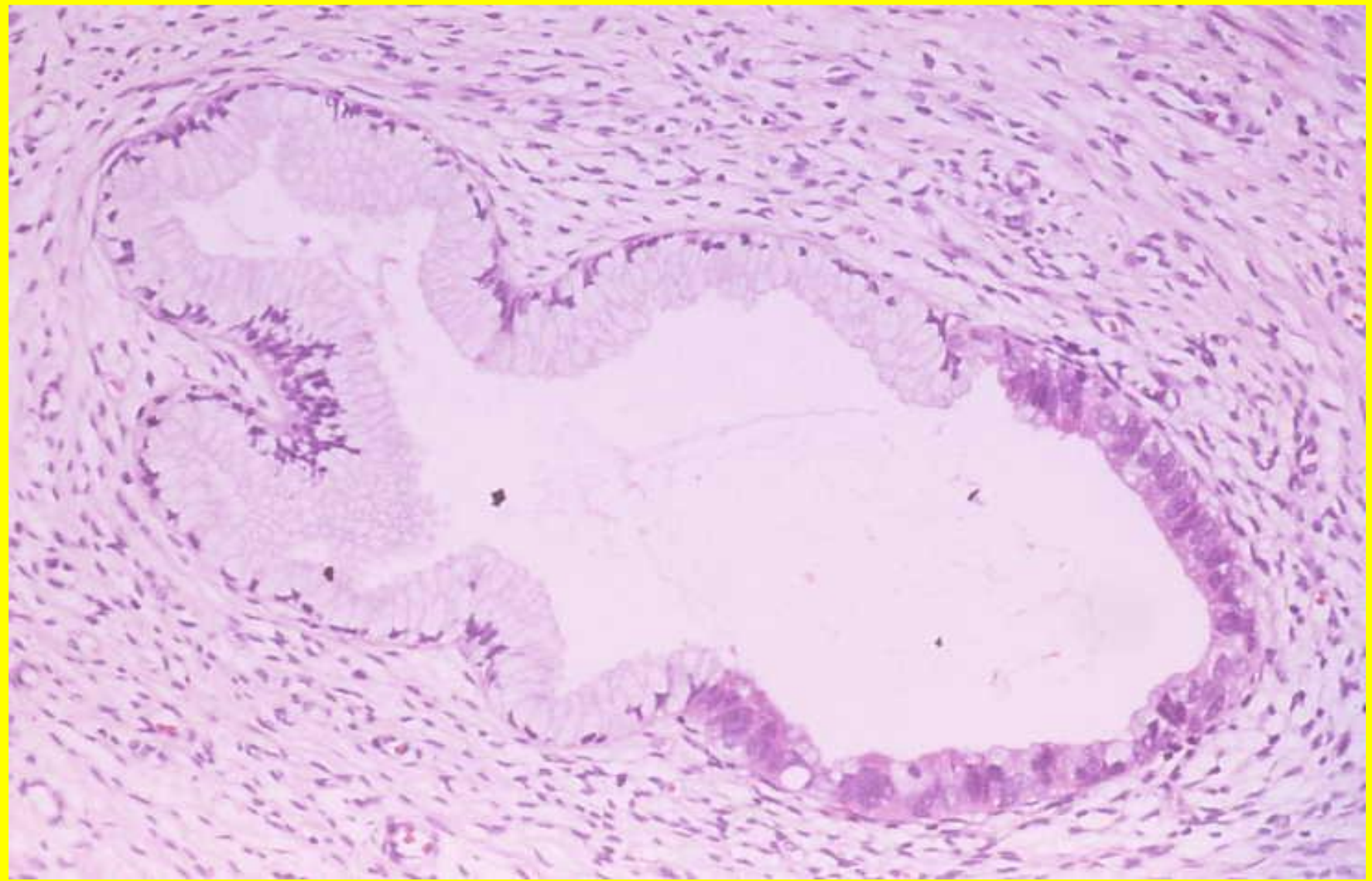


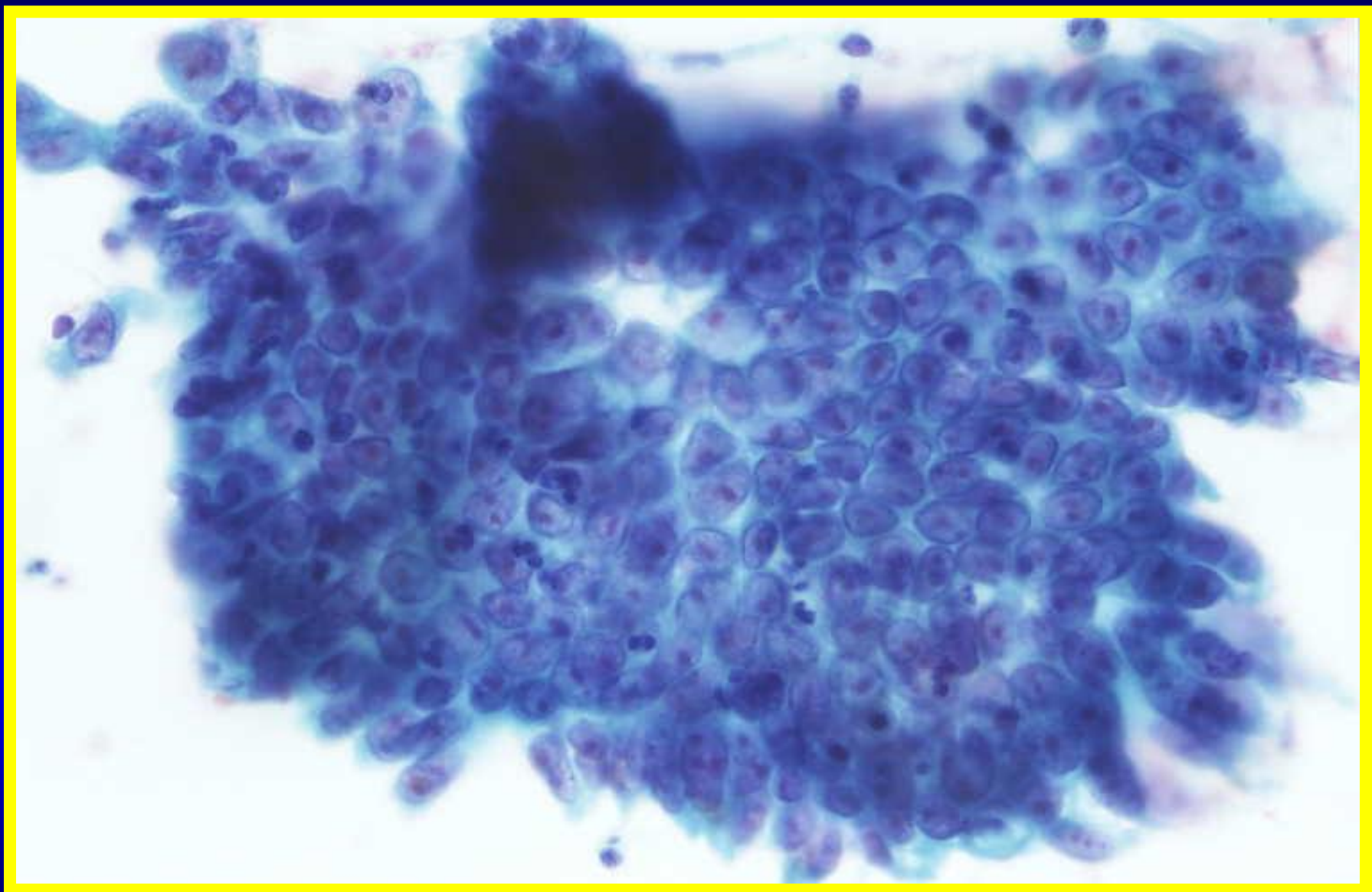


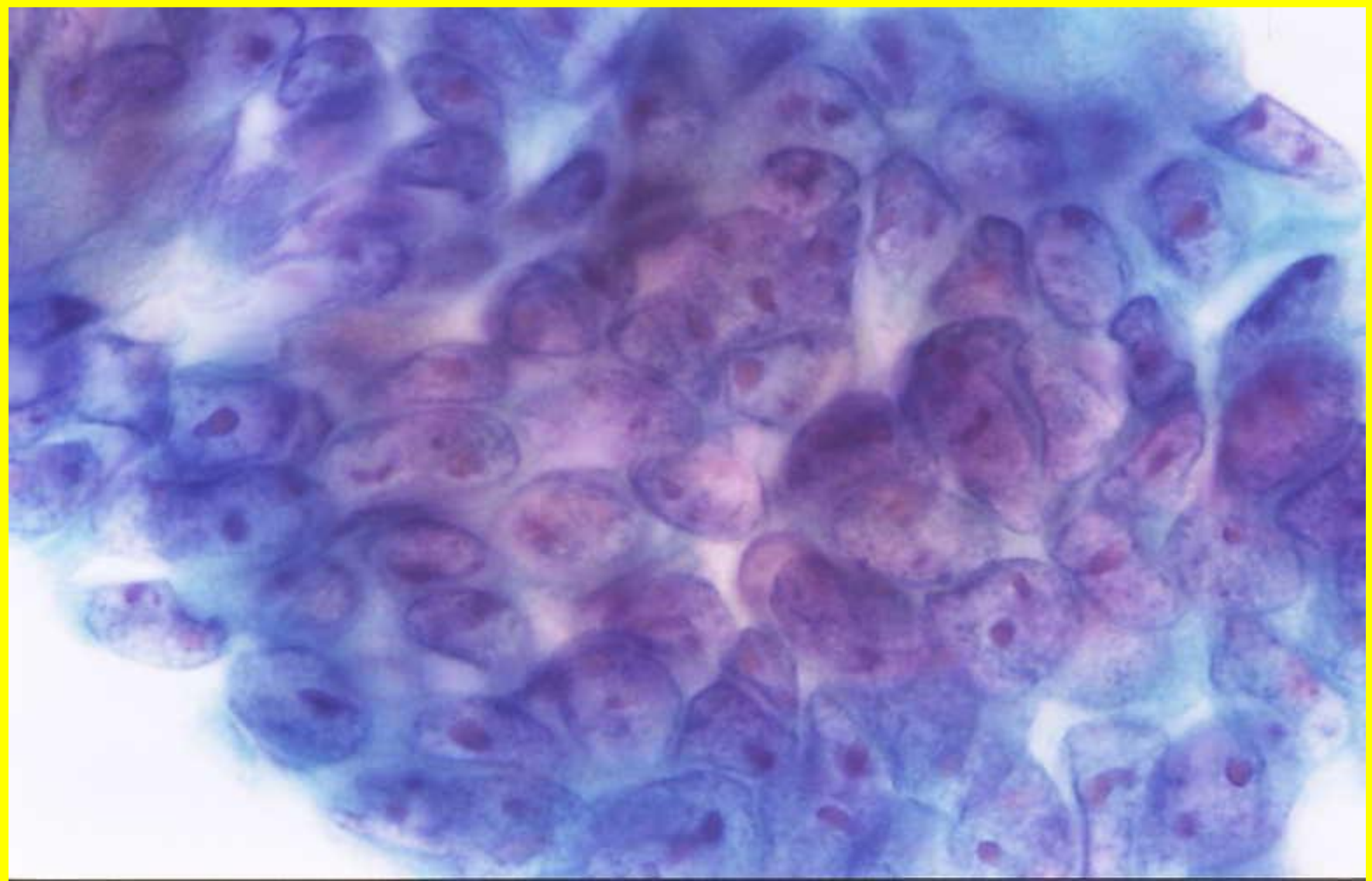


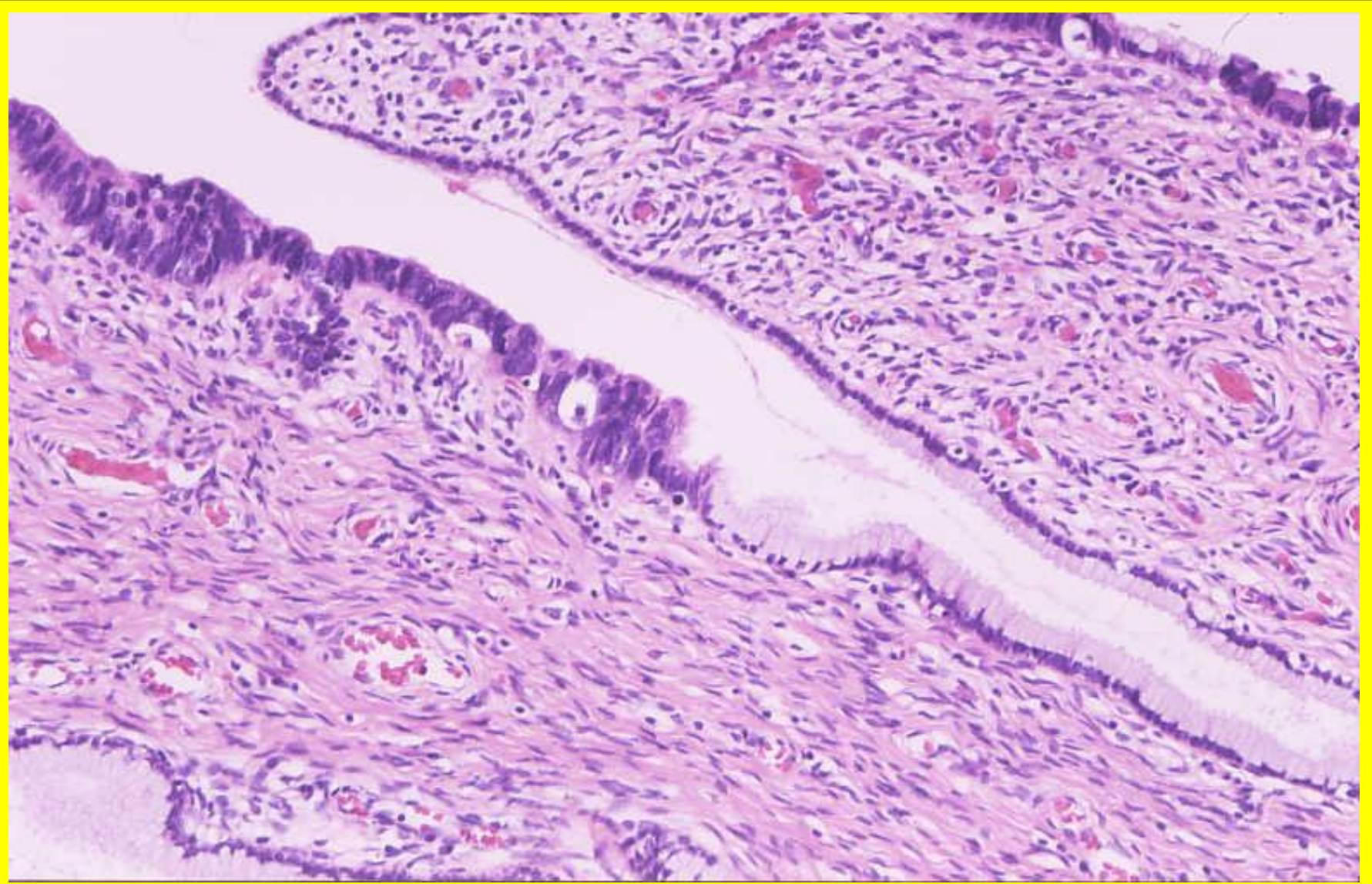


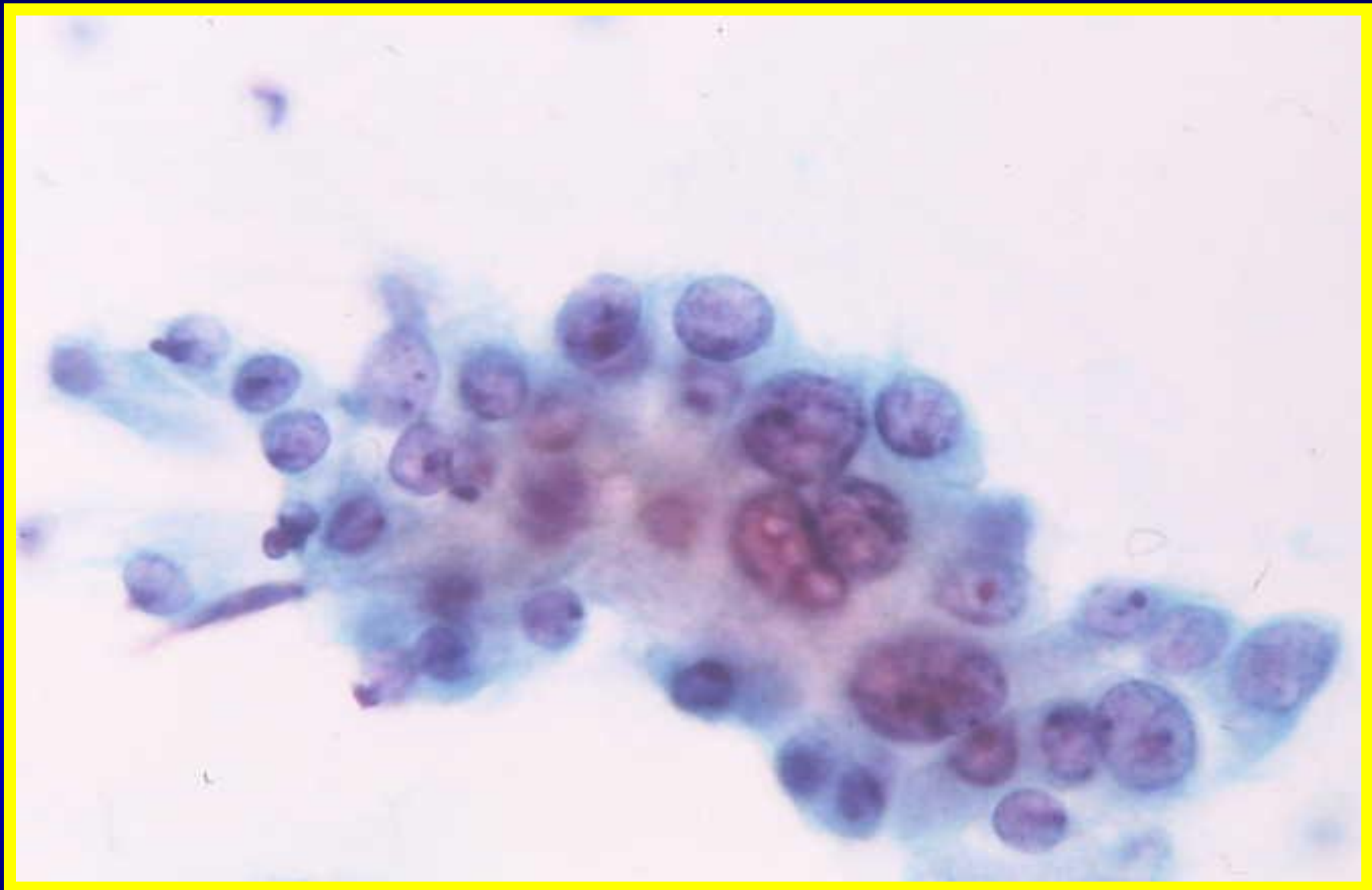


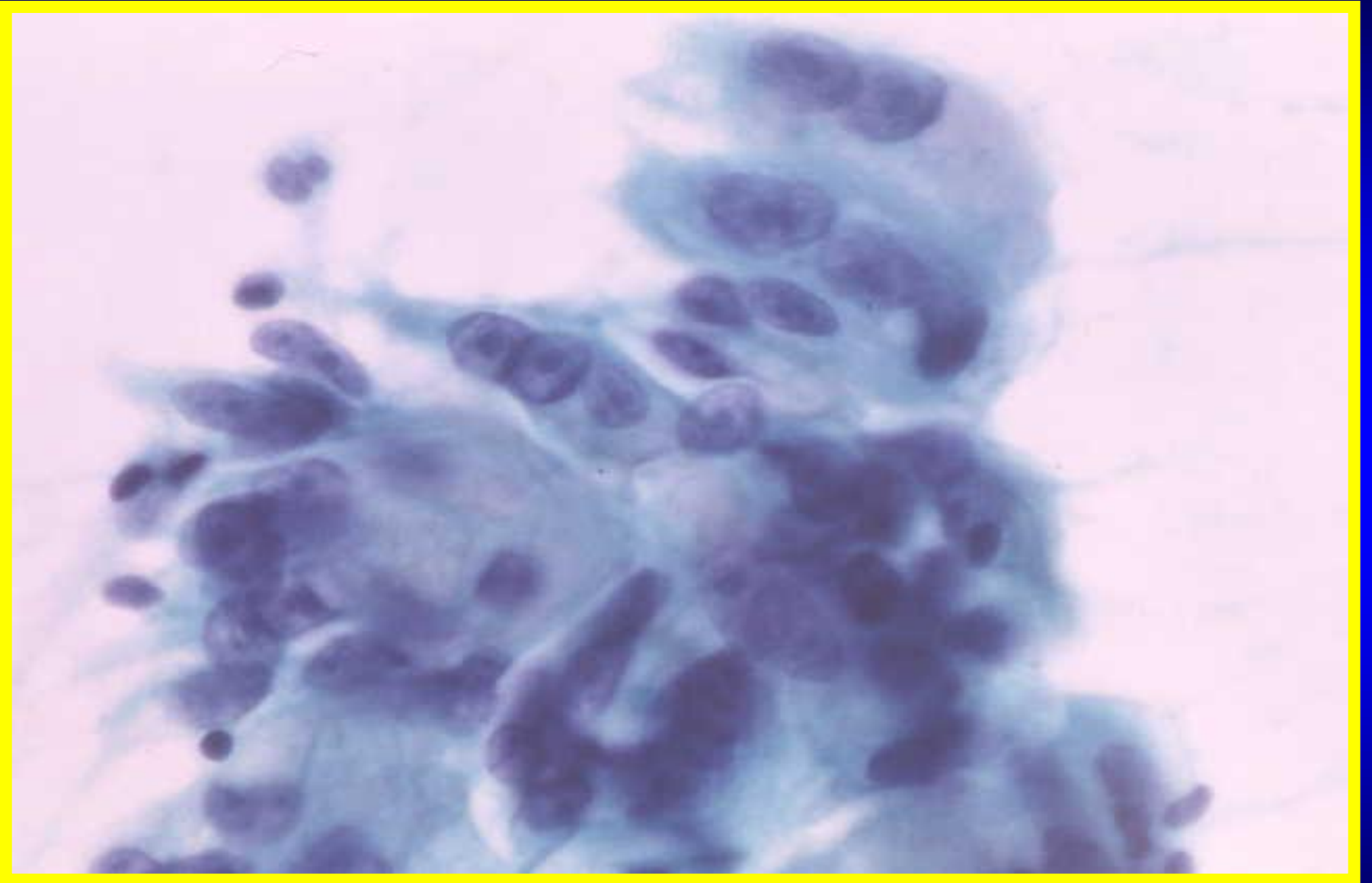


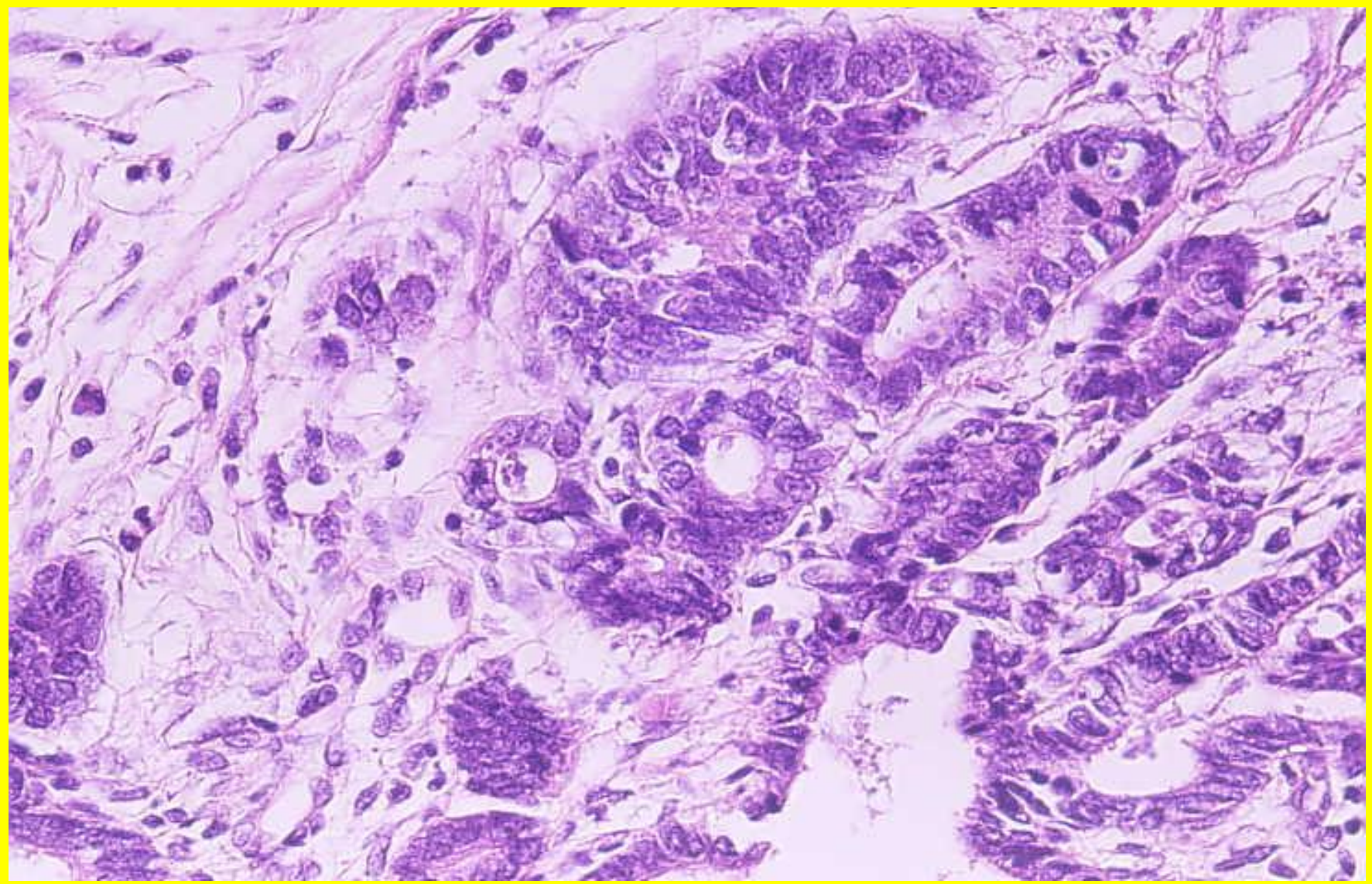


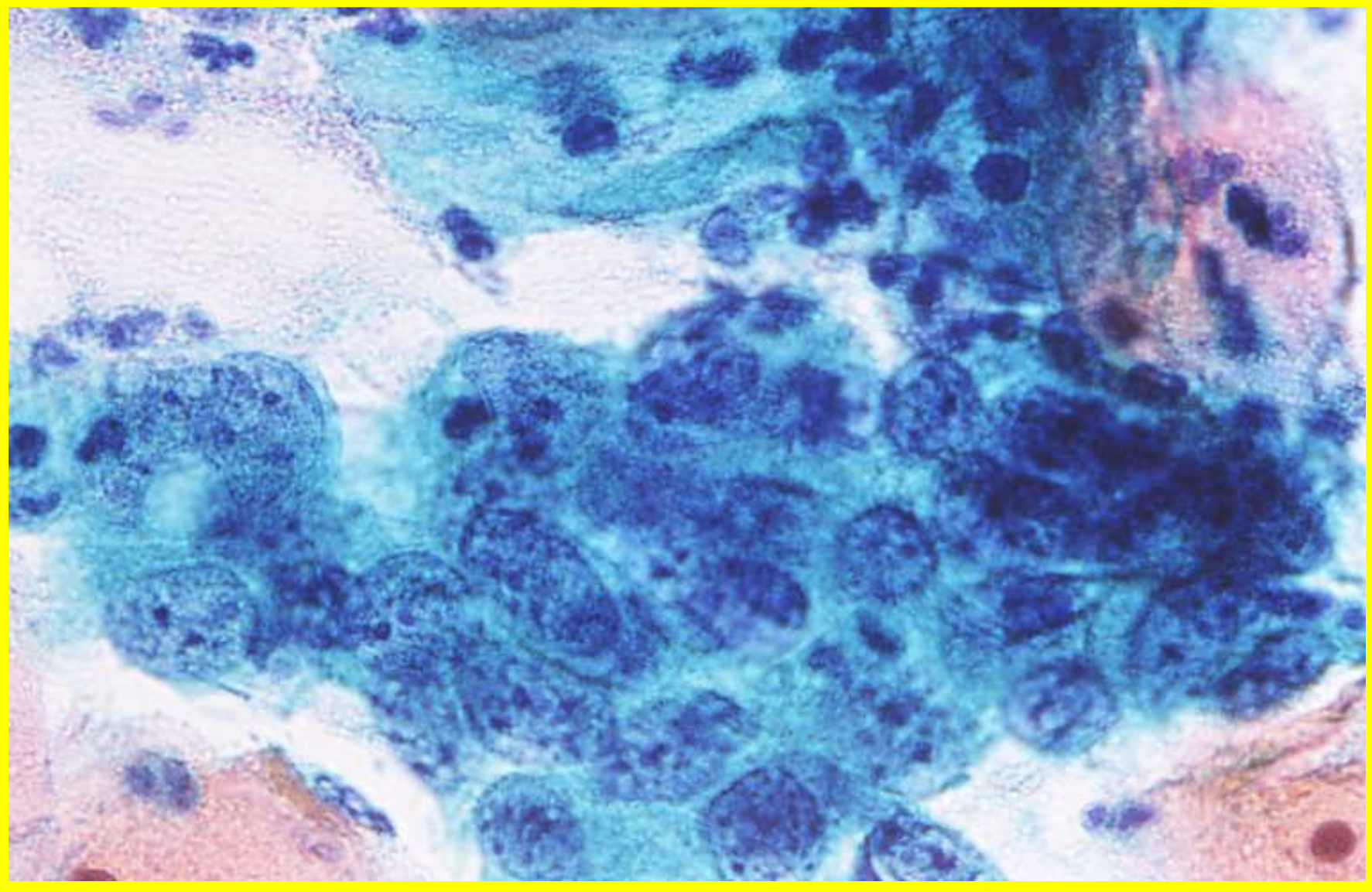


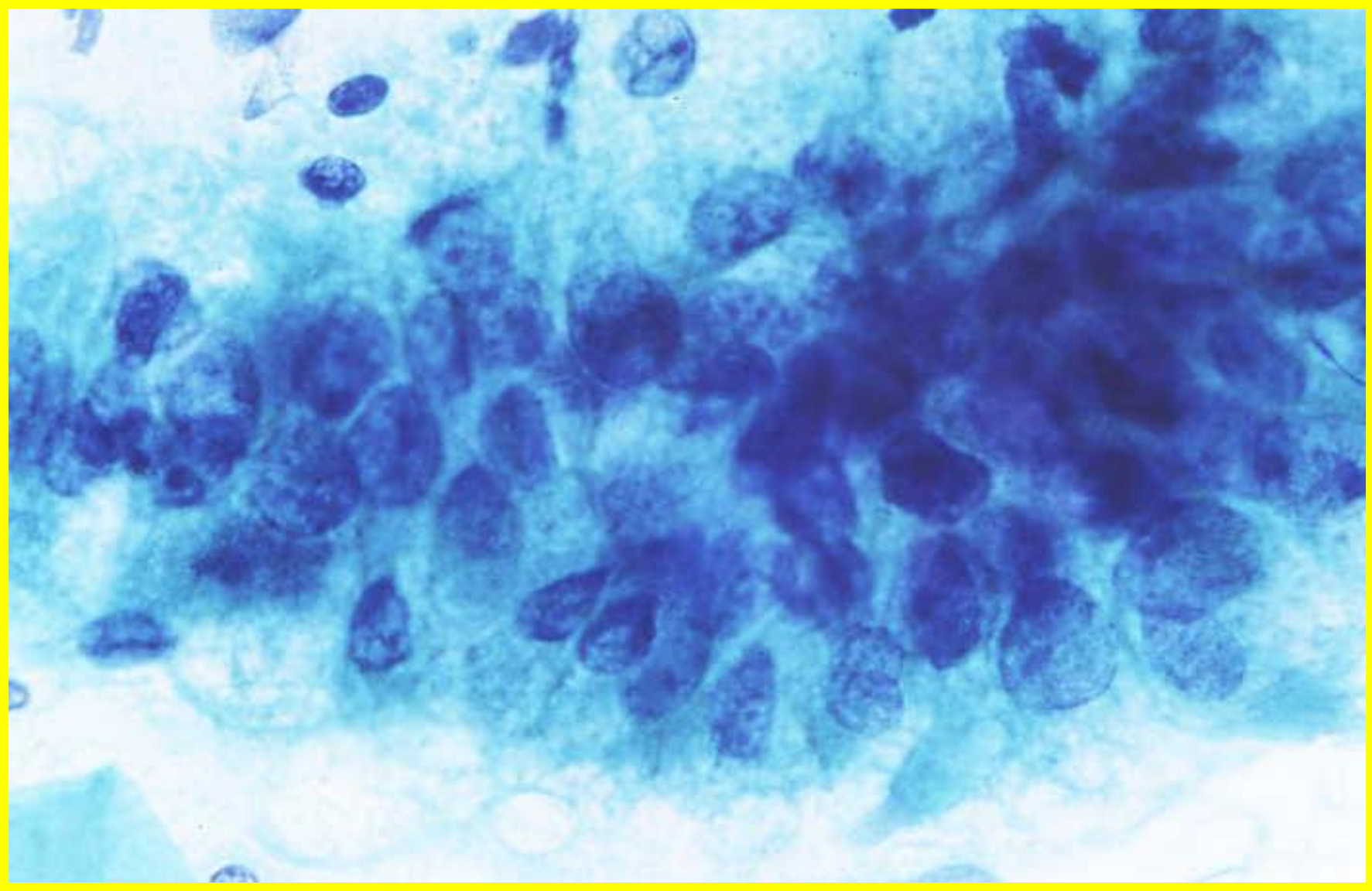


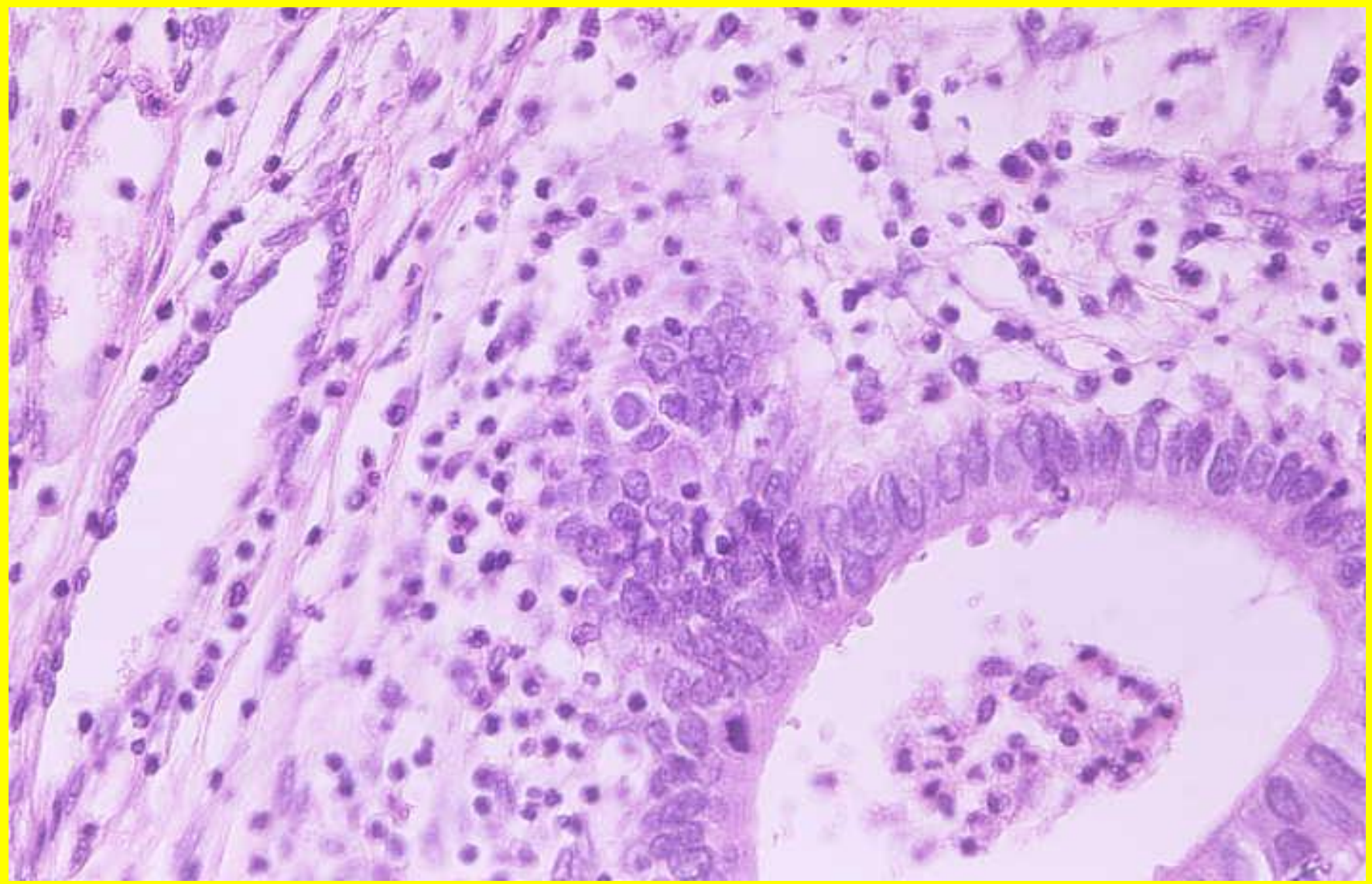












頸部初期腺病変のまとめ

- 細胞診上、判定は困難なことが多いが、積極的に拾い上げる。
- 頸部初期腺病変は採取方法により大きく検出率が異なる。
- コルポ診での特異的な所見は確立されていない。
- 初期腺病変での予後は総じて良好であるため、細胞診等は重要な検査法である。